

GA-G33M-S2H

LGA775 ソケットマザーボード(Intel® Core™ プロセッサファミリー/
Intel® Pentium® プロセッサファミリー/Intel® Celeron® プロセッサファミ
リー用)

ユーザーズマニュアル

改版 1001



* 製品のWEEE マーキングは、この製品をユーザーのその他の家庭廃棄物と共に廃棄してはならず、
指定された電子・電気機のリサイクル用収集地点に持ち込む必要があることを示しています。



* WEEEマーキングは、欧州連合の加盟国にのみ適用されます。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
(full address)

G.B.T. Technology Trading GmbH
Aussichtiger Weg 41-12, 26537 Hanburg, Germany

declare that the product

(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

Motherboard

GA-G33M-S2H

(reference to the specification under which conformity is declared)
In accordance with 89/336 EEC-EMC Directive

is in conformity with

the following Council Directive(s)

EN 55011

Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific and medical (ISM) equipment

EN 61000-3-3

Disturbances in supply systems caused by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"

EN 55024

Information Technology equipment-Immunity characteristics-Limits and methods of measurement

EN 55014-1

Generic immunity standard Part 1: Residential, commercial and light industry

EN 50082-1

Industrial environment

EN 55014-2

Generic immunity standard Part 2:

EN 50082-2

Industrial environment

EN 55020

EMC requirements for household fluorescent lamps and luminaires

EN 55022

EMC requirements for broadcast/receivers and associated equipment

EN 55022

EMC requirements for information technology equipment

EN VDE 0855

Cabled distribution systems: Equipment for receiving audio distribution from part 10: sound and television signals

EN 55022

EMC requirements for unshielded power systems (UPS)

EN 55022

EMC requirements for information technology equipment

EN 55022

EMC requirements for unshielded power systems (UPS)

CE

(EC conformity marking)

CE marking

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product

with the actual required safety standards in accordance with LVD 2006/95/EC

EN 60065

Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus or household and similar general use

EN 60335

Safety of household and similar electrical appliances

(EC conformity marking)

CE marking

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product

with the actual required safety standards in accordance with LVD 2006/95/EC

EN 60950

Safety for information technology equipment including electrical business equipment

EN 50081-1

General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street
City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9338 / (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-G33M-S2H

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a) Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Jul 13, 2007

Signature: Timmy Huang

Date : Jul 13, 2007

Name : Timmy Huang

著作権

© 2007 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

GIGABYTE ロゴは GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD により GIGABYTE UNITED INC. に独占的にライセンス供与されます。

GIGABYTE UNITED INC. は、GIGABYTE ブランドの付いたマザーボードの独占的販売代理店として GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD により指定されています。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。

このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

- 詳細な製品情報については、ユーザーマニュアルをよくお読みください。
- GIGABYTE に固有な機能の使用法については、当社 Web サイトの Support\Motherboard\Technology ガイドの情報を読みになるかダウンロードしてください。

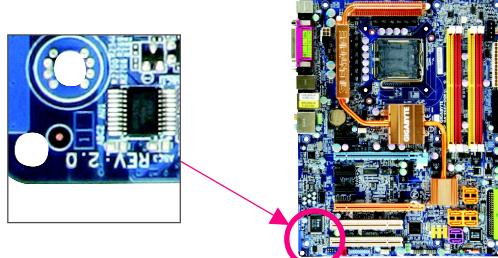
製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.com.tw>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報を探しているときは、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

例：



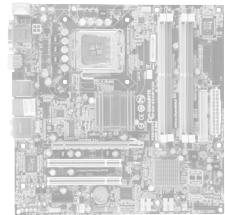
目 次

ボックスの内容	6
GA-G33M-S2H マザーボード のレイアウト	7
ブロック図	8
第 1 章 ハードウェアの取り付け	9
1-1 取り付け手順	9
1-2 製品の仕様	10
1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け	13
1-3-1 CPU を取り付ける	13
1-3-2 CPU クーラーを取り付ける	15
1-4 メモリの取り付け	16
1-4-1 デュアルチャンネルメモリ構成	16
1-4-2 メモリを取り付ける	17
1-5 拡張カードの取り付け	18
1-6 背面パネルのコネクタ	21
1-7 内部コネクタ	24
第 2 章 BIOS セットアップ	35
2-1 起動スクリーン	36
2-2 メインメニュー	37
2-3 Standard CMOS Features	39
2-4 Advanced BIOS Features	41
2-5 Integrated Peripherals	43
2-6 Power Management Setup	46
2-7 PnP/PCI Configurations	48
2-8 PC Health Status	49
2-9 MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)	51
2-10 Load Fail-Safe Defaults	54
2-11 Load Optimized Defaults	54
2-12 Set Supervisor/User Password	55
2-13 Save & Exit Setup	56
2-14 Exit Without Saving	56

第 3 章 ドライバのインストール	57
3-1 チップセットドライバのインストール(Installing Chipset Drivers)	57
3-2 ソフトウェアアプリケーション(Software Applications)	58
3-3 ドライバCD の情報(Driver CD Information)	58
3-4 ハードウェア情報(Hardware Information)	59
3-5 連絡先(Contact Us)	59
第 4 章 固有の機能	61
4-1 Xpress Recovery2	61
4-2 BIOS 更新ユーティリティ	66
4-2-1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する	66
4-2-2 @BIOS ユーティリティで BIOS を更新する	69
4-3 EasyTune 5	71
4-4 Windows Vista ReadyBoost	72
第 5 章 付録	73
5-1 オーディオ入力および出力を設定	73
5-1-1 2 / 4 / 5.1 / 7.1 チャネルオーディオを設定する	73
5-1-2 S/PDIF インケーブルを取り付ける(オプション)	76
5-1-3 DTS(デジタルシアターシステム)機能を有効にしています	78
5-1-4 サウンドレコーダーを使用する	79
5-1-5 マイク録音を設定する	81
5-2 トラブルシューティング	82
5-2-1 良くある質問	82
5-2-2 トラブルシューティング手順ボックスの内容	83

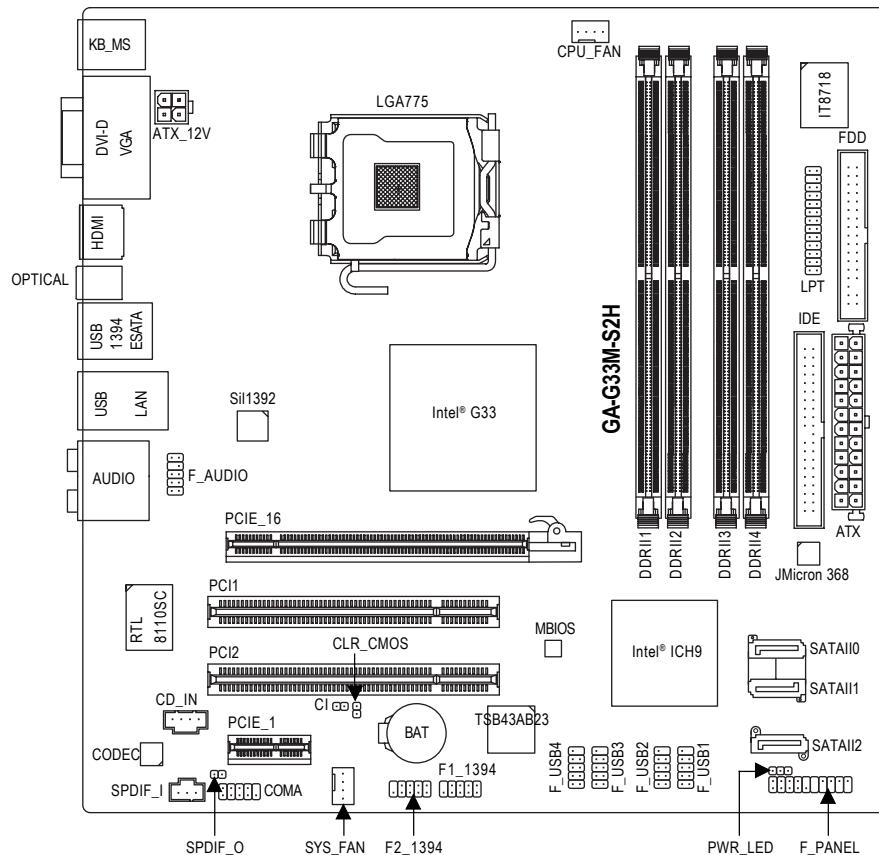
ボックスの内容

- GA-G33M-S2H マザーボード
- マザーボードドライバディスク
- ユーザーマニュアル
- Intel® LGA775 CPU インストールガイド
- IDE ケーブル (x1) およびフロッピーディスクドライブケーブル (x1)
- SATA 3Gb/s ケーブル (x2)
- I/O シールド

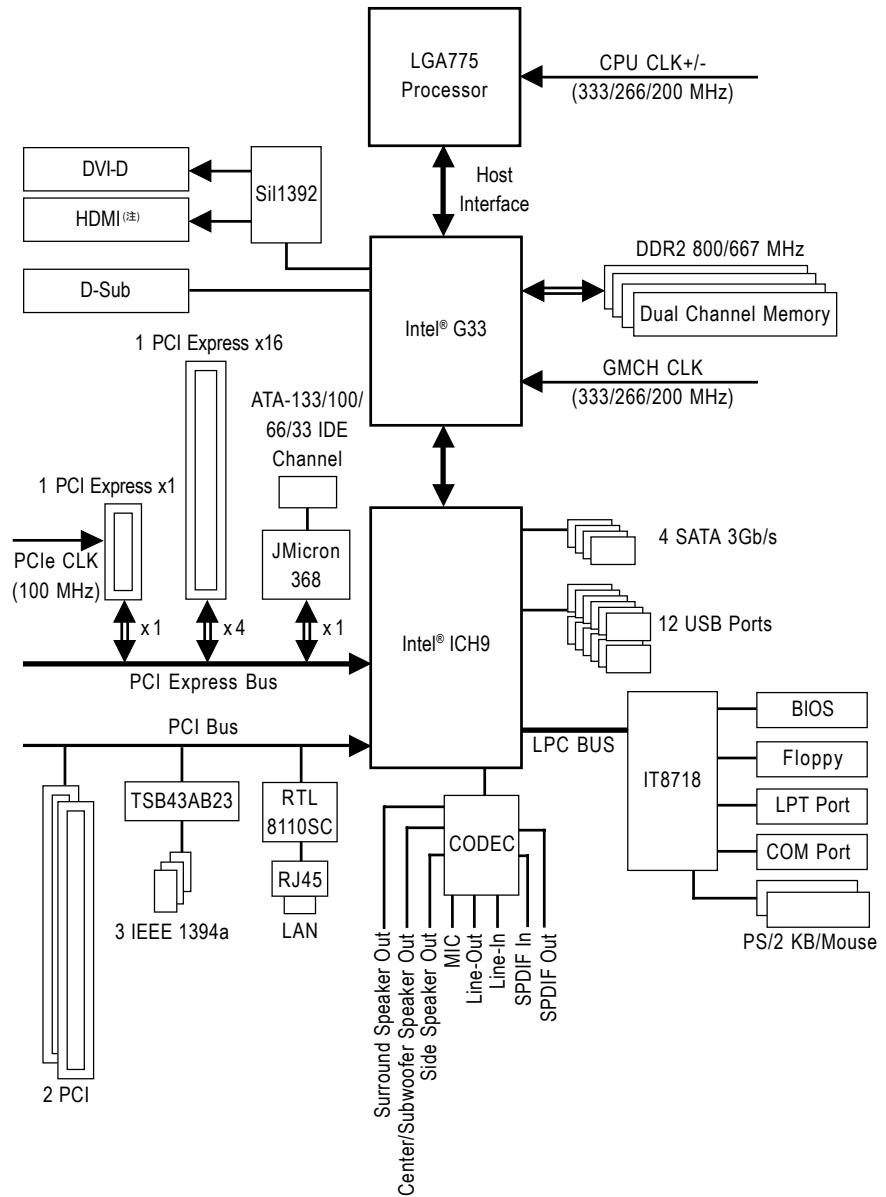


上のボックスの内容は参考専用であり、実際のアイテムはお求めになった製品パッケージにより異なります。
ボックスの内容は、事前の通知なしに変更することがあります。

GA-G33M-S2H マザーボードのレイアウト



ブロック図



(注) DVI-D と HDMI の同時出力はサポートされません。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電(ESD)の結果損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付ける前に、マザーボードのS/Nシリアル番号ステッカまたはディーラーが提供する保証ステッカを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのシリアルステッカは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いてAC電力を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPUまたはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電(ESD)リストラップを着用するようにお勧めします。ESDリストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、金属物体に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、これを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、でんげんそうちの電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、怪我につながる危険があります。
- 取り付けステップについて不明確な場合や、製品の使用に関して問題がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

CPU	<ul style="list-style-type: none"> 以下のプロセッサをサポート : Intel® Core™ 2 Extreme プロセッサ / Intel® Core™ 2 Quad プロセッサ / Intel® Core™ 2 Duo プロセッサ / Intel® Pentium® プロセッサ Extreme Edition / Intel® Pentium® D プロセッサ / Intel® Pentium® 4 プロセッサ Extreme Edition / Intel® Pentium® 4 プロセッサ / Intel® Celeron® プロセッサ (LGA 775 パッケージ) (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。 Intel® ハイパースレッディングテクノロジをサポート L2 キャッシュは CPU で異なります
フロントサイドバス	<ul style="list-style-type: none"> 1333/1066/800 MHz FSB
チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ノースブリッジ: Intel® G33 Express チップセット サウスブリッジ: Intel® ICH9
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> 最大 8 GB のシステムメモリをサポートする 1.8V DDR2 DIMM ソケット (x4) <small>(注 1)</small> デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ DDR2 800/667 MHz メモリモジュールのサポート (最新のメモリ サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。
オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> サウスブリッジに統合
オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> Realtek ALC889A コーデック ハイディフィニションオーディオ 2/4/5.1/7.1 チャンネル DTS (dts NEO : PC) のサポート S/PDIF イン / アウト のサポート CD インのサポート
LAN	<ul style="list-style-type: none"> RTL8110SC chip (10/100/1000 Mbit)
拡張スロット	<ul style="list-style-type: none"> PCI Express x4 モードをサポートする 1 x PCI Express x16 スロット <small>(注 2)</small> PCI Express x1 スロット (x1) PCI スロット (x2)
ストレージインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> サウスブリッジ: <ul style="list-style-type: none"> I/O コントローラ経由で、最大 1 つのフロッピーディスクドライブをサポートするフロッピーディスクドライブコネクタ (x1) 最大 3 つの SATA 3Gb/s デバイスをサポートする SATA 3Gb/s コネクタ (SATAII0、SATAII1、SATAII2) (x3) <small>(注 3)</small> 最大 1 つの SAA 3Gb/s デバイスをサポートする背面パネルの eSATA 3Gb/s ポート (x1) JMicron 368 チップ: <ul style="list-style-type: none"> ATA-133/100/66/33 および 2 つの IDE デバイスをサポートする IDE コネクタ (x1)
IEEE 1394a	<ul style="list-style-type: none"> T.I. TSB43AB23 チップ 最大 3 つの IEEE 1394a ポート (背面パネルに 1 つ、内部 IEEE 1394 ヘッダに接続された IEEE 1394 ブラケットを介して 1, 2 つ)
USB	<ul style="list-style-type: none"> サウスブリッジに統合 最大 12 の USB 2.0/1.1 ポート (背面パネルに 8 つ、内部 USB ヘッダに接続された USB ブラケットを介して 4 つ)

内部コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) ◆ 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ フロッピーディスクドライブコネクタ (x1) ◆ IDE コネクタ (x1) ◆ SATA 3Gb/s コネクタ (x3) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ CD インコネクタ (x1) ◆ S/PDIF インヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ IEEE 1394a ヘッダ (x2) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x4) ◆ パラレルポートヘッダ (x1) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ シャーシ侵入ヘッダ (x1) ◆ 電源 LED ヘッダ (x1)
背面パネル のコネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2 キーボードポート (x1) ◆ PS/2 マウスポート (x1) ◆ 1 x D-Sub ポート ◆ DVI-D ポート <small>(注4)</small> (x1) ◆ HDMI ポート <small>(注5)</small> (x1) ◆ 光 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ eSATA 3Gb/s コネクタ (x1) ◆ IEEE 1394a ポート (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x4) ◆ RJ-45 ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x6) (センター / サブウーファスピーカーアウト / 背面スピーカーアウト / 側面スピーカーアウト / ラインイン / ラインアウト / マイク)
I/O コントローラ	◆ iTE IT8718 チップ
ハードウェアモニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム電圧の検出 ◆ CPU/システム温度の検出 ◆ CPU/システムファン速度の検出 ◆ CPU 過熱警告 ◆ CPU/システムファンエラー警告 ◆ CPU ファン速度制御
BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 8 Mbit フラッシュ (x1) ◆ ライセンスを受けた AWARD BIOS の使用 ◆ PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.3, ACPI 1.0b

固有の機能	◆ @BIOS のサポート ◆ ダウンロードセンターのサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ EasyTune のサポート ^(注 6) ◆ Xpress インストールのサポート ◆ Xpress Recovery2 のサポート ◆ 仮想デュアル BIOS のサポート
バンドルされたソフトウェア	◆ バンドルされたソフトウェア(OEM バージョン)
オペレーティングシステム	◆ Microsoft® Windows® Vista/XP/2000 のサポート
フォームファクタ	◆ Micro ATX フォームファクタ、24.4cm x 24.4cm

- (注 1) Windows XP 32 ビットオペレーティングシステムの制限により、4 GB 以上の物理メモリを取り付けても、表示される実際のメモリサイズは 4 GB より少なくなります。
- (注 2) GA-G33M-S2H は PCI Express x4 モードまでサポートします。(19 ページのグラフィックスカードサポートリストを参照してください)
- (注 3) ICH9 サウスブリッジで制御される SATA コネクタのホットプラグ機能を有効にするには、Windows Vista をインストールし(ICH9 では、ホットプラグは Windows Vista でのみサポートされます)、AHCI モードに対して SATA コネクタを設定する必要があります。(AHCI を有効にする方法の詳細については、第 2 章「BIOS セットアップ」、「統合周辺機器」を参照してください)。
- (注 4) DVI-D ポートはアダプタによる D-Sub をサポートしません。
- (注 5) Intel G33 グラフィックスドライバの制限により、GA-G33M-S2H は Blu-ray/ HD DVD 形式の再生を現在サポートしていません。リリースされた時点で、Intel の完全なドライバサポートは GIGABYTE Web サイトで更新されます。
- (注 6) Easytune の使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け



ご使用上の注意

- マザーボードがCPUをサポートしていることを確認してください。
(最新のCPUサポートリストについては、GIGABYTEのWebサイトにアクセスしてください)。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPUを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPUのピン1を探します。CPUは間違った方向には差し込むことができません。(または、CPUの両側のノッチとCPUソケットのアライメントキーを確認します)。
- CPUの表面に熱グリースを均等に薄く塗ります。
- CPUクーラーを取り付けない場合はコンピュータのパワーをオンにしないでください。CPUが損傷する原因となります。
- CPUの仕様に従って、CPUのホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

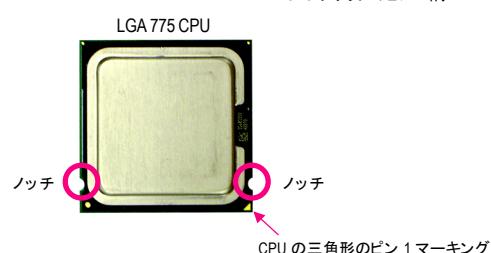
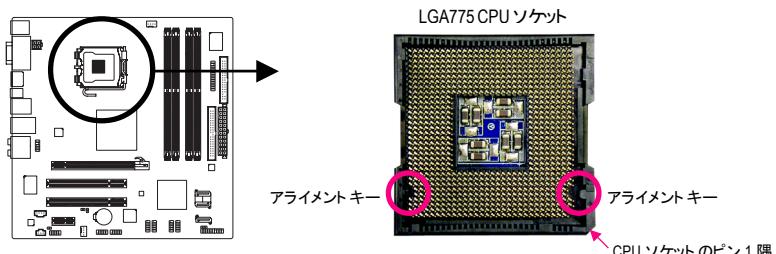


ハイパースレッディングテクノロジのシステム要件:
(ハイパースレッディングテクノロジの詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください)

- HTテクノロジをサポートするIntel®CPU
- HTテクノロジをサポートするチップセット
- HTテクノロジ用に最適化されたオペレーティングシステム
- HTテクノロジをサポートし有効にしているBIOS
(HTテクノロジを有効にする説明については、第2章「BIOSセットアップ」、「Advanced BIOS Features」を参照してください)。

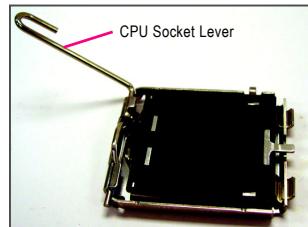
1-3-1 CPUを取り付ける

- A. マザーボードCPUソケットのアライメントキーおよびCPUのノッチを確認します。

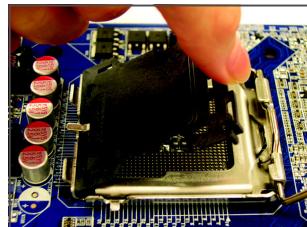


B. 以下のステップに従って、CPUをマザーボードのCPUソケットに正しく取り付けてください。

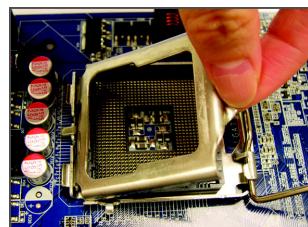
ご使用上の注意 CPUを取り付ける前に、CPUの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



ステップ1:
CPUソケットレバーを完全に持ち上げます。



ステップ2:
保護ソケットカバーを取り外します。



ステップ3:
CPUソケットの金属製ロードプレートを持ち上げます。



ステップ4:
CPUを親指と人差し指で抑えます。CPUピン1のマーキング(三角形)をCPUソケットのピン1隅に合わせ(または、CPUノッチをソケットアライメントキーに合わせ)、CPUを所定の位置にそっと差し込みます。



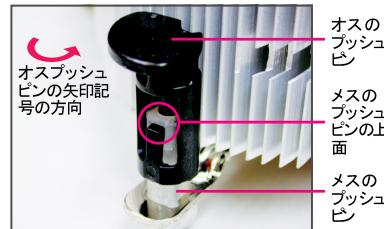
ステップ5:
CPUが正しく挿入されたら、ロードプレートを元に戻し、CPUソケットレバーをそのロックされた位置に押し込んでください。

1-3-2 CPU クーラーを取り付ける

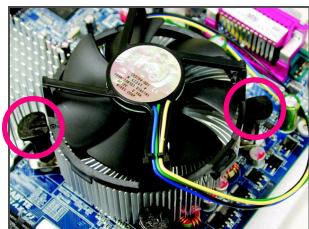
以下のステップに従って、CPU クーラーをマザーボードに正しく取り付けてください。（以下の手順は、サンプルのクーラーとして Intel® ポックスクーラーを使用しています）。



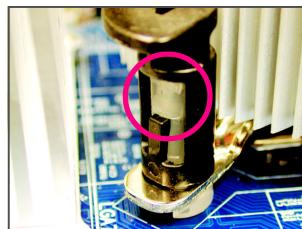
ステップ 1:
取り付けた CPU の表面に熱グリースを均等に薄く塗ります。



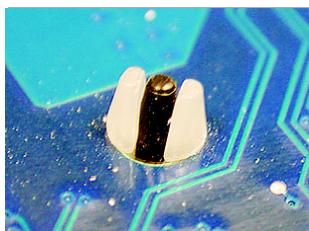
ステップ 2:
クーラーを取り付ける前に、オスプッシュピンの矢印記号  の方向に注意してください。（矢印の方向に沿ってプッシュピンを回すとクーラーが取り外され、逆の方向に回すと取り付けられます。）



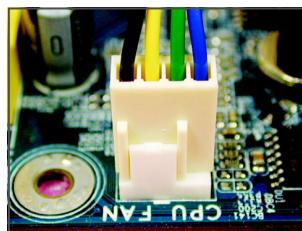
ステップ 3:
クーラーを CPU の上に配置し、マザーボードのピン穴を通して 4 つのプッシュピンを揃えます。プッシュピンを、対角方向に押し下げてください。



ステップ 4:
それぞれのプッシュピンを押し下げると、「クリック音」が聞こえます。オスとメスのプッシュピンがしっかりと結合していることを確認してください（クーラーを取り付ける方法については、CPU クーラーの取り付けマニュアルを参照してください）。



ステップ 5:
インストール後、マザーボードの背面をチェックします。プッシュピンが上の図のように挿入されていれば、取り付けは完了です。



ステップ 6:
最後に、CPU クーラーの電源コネクタをマザーボードの CPU ファンヘッダ (CPU_FAN) に取り付けてください。

 CPU クーラーと CPU の間の熱グリース / テープは CPU にしっかりと接着されているため、CPU クーラーを取り外すときは、細心の注意を払ってください。CPU クーラーを不適切に取り外すと、CPU が損傷する恐れがあります。

1-4 メモリの取り付け



ご使用上の注意

メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(最新のメモリサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは、絶対に確実な設計が施されています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

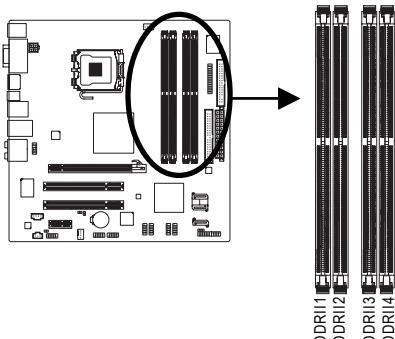
1-4-1 デュアルチャンネルメモリ構成



このマザーボードには、DDR2 メモリソケットが搭載されており、デュアルチャンネルテクノロジをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOS はメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードを有効にすると、元のメモリバンド幅が 2 倍になります。

4 つの DDR2 メモリソケットが 2 つのチャンネルに分割され、それぞれのチャンネルには以下のように 2 つのメモリソケットが付いています。

- チャンネル 0: DDRII1、DDRII2
- チャンネル 1: DDRII3、DDRII4



► デュアルチャンネルメモリ構成表

	DDRII1	DDRII2	DDRII3	DDRII4
2 つのモジュール	DS/SS	--	DS/SS	--
--	--	DS/SS	--	DS/SS
4 つのモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

(SS=片面、DS=両面、「-」=メモリなし)

チップセットの制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に以下のガイドラインをお読みください。

- DDR2 メモリモジュールが 1 つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2 つまたは 4 つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にするとき、最適のパフォーマンスを発揮させるには同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリを使用し、同じ色の DDR2 ソケットに取り付けるようお勧めします。

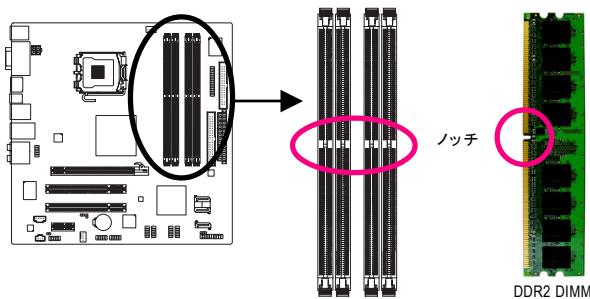


異なる容量とチップのメモリモジュールを取り付けるとき、POST 中にメモリはフレックスマメモリモードで作動していますというメッセージが表示されます。Intel® フレックスメモリテクノロジでは、異なるメモリサイズを装着しながらデュアルチャンネルモード / パフォーマンスを発揮することによって、アップグレードするためのより大きな柔軟性を提供しています。

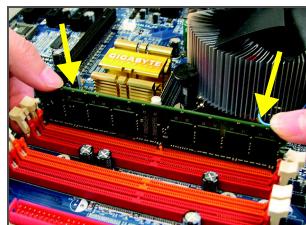
1-4-2 メモリを取り付ける



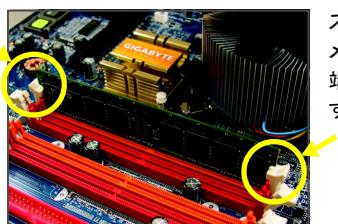
ご使用上の注意
メモリモジュールを取り付ける前に、メモリモジュールの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。DDR2 DIMM は DDR DIMM と互換性がありません。このマザーボードには、必ず DDR2 DIMM を取り付けるようにしてください。



DDR2 メモリモジュールにはノッチが付いているため、一方向にしかフィットしません。以下のステップに従って、メモリソケットにメモリモジュールを正しく取り付けてください。



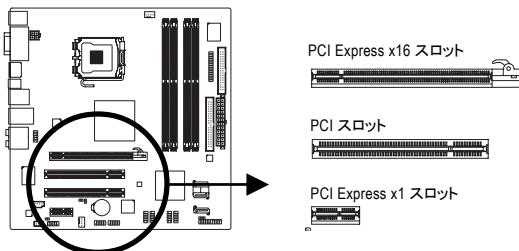
ステップ 1:
メモリモジュールの方向に注意します。メモリソケットの両端の保持クリップを広げます。ソケットにメモリモジュールを取り付けます。左の図に示すように、指をメモリの上に置き、メモリを押し下げ、メモリソケットに垂直に差し込みます。



ステップ 2:
メモリモジュールがしっかりと差し込まれると、ソケットの両端のチップはカチッと音を立てて所定の位置に収まります。

1-5 拡張カードの取り付け

- 拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:
- ご使用上の注意**
- マザーボードが拡張カードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
 - ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



以下のステップに従って、拡張スロットに拡張カードを正しく取り付けてください。

- カードをサポートする拡張スロットを探します。シャーシの背面パネルから金属製のスロットカバーを取り外します。
- カードの位置をスロットに合わせ、スロットに完全に装着されるまでカードを下に押します。
- カードの金属の接点がスロットに完全に挿入されていることを確認します。
- カードの金属製ブラケットをねじでシャーシの背面パネルに固定します。
- すべての拡張カードを取り付けたら、シャーシカバーを元に戻します。
- コンピュータのパワーをオンにします。必要に応じて、BIOS セットアップを開き、拡張カードで要求される BIOS の変更を行ってください。
- 拡張カードに付属するドライバを、オペレーティングシステムにインストールします。

例: PCI Express x16 グラフィックスカードの取り付けと取り外し:



- グラフィックスカードの取り付け:
グラフィックスカードを PCI Express x16 スロットにそっと挿入します。グラフィックスカードが PCI Express x16 スロットの最後にあるラッチによってロックされていることを確認します。



- カードを取り外す:
PCI Express x16 スロットの端の白いラッチを押してカードを取り外し、カードをスロットから垂直に引っ張り上げます。

PCI Express x16 グラフィックスカードのサポートリスト

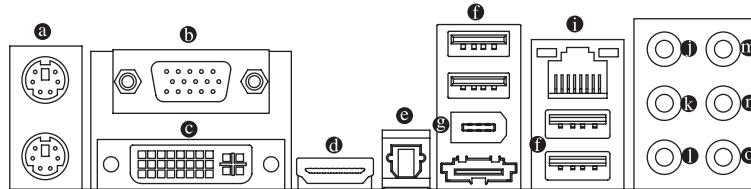
以下のアイテムは、Windows XP オペレーティングシステムでのみサポートされます。アドオングラフィックスカードを使用しているとき、まずオンボードグラフィックスドライバを削除してから、アドオングラフィックスカード用のドライバをインストールしてください。

グラフィックスチップ	メーカー	モデル名
ATI Radeon X300 LE	GIGABYTE	GV-RX30128D
ATI Radeon X300 SE	GIGABYTE	GV-RX30S128D
ATI Radeon X300 SE + Hyper Memory	GIGABYTE	GV-RX30HM128D
ATI Radeon X550	GIGABYTE	GV-RX55128D
ATI Radeon X600 Pro	GIGABYTE	GV-RX60P128DE
ATI Radeon X600 XT	GIGABYTE	GV-RX60X128V
ATI Radeon X700	GIGABYTE	GV-RX70128D
ATI Radeon X700 Pro	GIGABYTE	GV-RX70P128D
ATI Radeon X800	GIGABYTE	GV-RX80256D
ATI Radeon X800 XL	GIGABYTE	GV-RX80L256V
ATI Radeon X850 XT	GIGABYTE	GV-RX85T256V-B
ATI Radeon X1300	GIGABYTE	GV-RX13128D-RH
ATI Radeon X1300 Pro	GIGABYTE	GV-RX13P256D-RH
ATI Radeon X1550	GIGABYTE	GV-RX155256D-RH
ATI Radeon X1600 Pro	GIGABYTE	GV-RX16P256DE-RH
ATI Radeon X1600 XT	GIGABYTE	GV-RX16T256V-RH
ATI Radeon X1650 Pro	GIGABYTE	GV-RX165P256D-RH
ATI Radeon X1650 XT	GIGABYTE	GV-RX165T256D-RH
ATI Radeon X1800 XL	GIGABYTE	GV-RX18L256V-B
ATI Radeon X1800 XT	GIGABYTE	GV-RX18T512V-B
ATI Radeon X1900 XTX	GIGABYTE	GV-RC19T512B-RH
ATI Radeon X1950 Pro	GIGABYTE	GV-RX195P256D-RH
ATI Radeon X1950 XTX	GIGABYTE	GV-RX195X512VB-RH
ATI Radeon X600 XT	MSI	RX600 XT-TD128
ATI Radeon X700 Pro	ASUS	AX700PRO
ATI Radeon X800 XT	ASUS	AX800XT

(続 >...)

グラフィックスチップ	メーカー	モデル名
NVIDIA Geforce PCX 5300	GIGABYTE	GV-NX53128D
NVIDIA Geforce PCX 5750	GIGABYTE	GV-NX57128D
NVIDIA Geforce PCX 5900	GIGABYTE	GV-NX59128D
NVIDIA Geforce 5200 Ultra	GIGABYTE	GV-NX55128DP
NVIDIA Geforce 6200	GIGABYTE	GV-NX62128D
NVIDIA Geforce 6500	GIGABYTE	GV-NX65128DE
NVIDIA Geforce 6600	GIGABYTE	GV-NX66128DP2
NVIDIA Geforce 6600 LE	GIGABYTE	GV-NX66L128DP
NVIDIA Geforce 6800	GIGABYTE	GV-NX68256D
NVIDIA Geforce 6800 GT	GIGABYTE	GV-NX68T256DH
NVIDIA Geforce 6800 Ultra	GIGABYTE	GV-NX68U256D-B
NVIDIA Geforce 7100 GS	GIGABYTE	GV-NX71G512P8-RH
NVIDIA Geforce 7300 GS	GIGABYTE	GV-NX73G128D-RH
NVIDIA Geforce 7300 GT	GIGABYTE	GV-NX73T256D-RH
NVIDIA Geforce 7300 LE	GIGABYTE	GV-NX73L128D-RH
NVIDIA Geforce 7600 GS	GIGABYTE	GV-NX76G256D-RH
NVIDIA Geforce 7600 GT	GIGABYTE	GV-NX76T256D-RH
NVIDIA Geforce 7800 GT	GIGABYTE	GV-NX78T256V-B
NVIDIA Geforce 7800 GTX	GIGABYTE	GV-NX78X256V-B
NVIDIA Geforce 7900 GS	GIGABYTE	GV-NX79G256DP-RH
NVIDIA Geforce 7900 GT	GIGABYTE	GV-NX79T256DP-RH
NVIDIA Geforce 7900 GTX	GIGABYTE	GV-NX79X512VB-RH / GV-NX79X512DB-RH
NVIDIA Geforce 8800 GTX	GIGABYTE	GV-NX88X768H-RH (700 ワット以上の電源装置を推奨します)
NVIDIA Geforce 6600	ASUS	EN6600/TD/128
NVIDIA Geforce 6600 GT	ASUS	EN6600GT/TD/128
NVIDIA Geforce 6600 GT	Leadtek	WinFast PX6600GT TDH
NVIDIA Geforce 6800 GT	MSI	NX6800GT-TD256E
NVIDIA Geforce 7600 GT	ELSA	GLADIAC 760GT
NVIDIA Geforce 7900 GT	ELSA	GLADIAC 790GT

1-6 背面パネルのコネクタ



① PS/2 キーボードと PS/2 マウスポート

上部ポート(緑)を使用して PS/2 マウスを接続し、下部ポート(紫)を使用して PS/2 キーボードを接続します。

② D-Sub ポート

D-Sub ポートは 15 ピン D-Sub コネクタをサポートします。D-Sub 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

③ DVI-D ポート

DVI-D ポートは DVI-D 仕様をサポートします。DVI-D 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

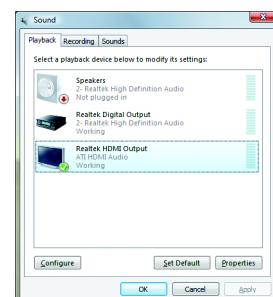
④ HDMI ポート (注)

HDMI (ハイディフィニションマルチメディアインターフェイス) では、オールデジタルオーディオ/ビデオインターフェイスを用意して非圧縮オーディオ/ビデオ信号を送信し、HDCPに準拠しています。HDMI オーディオ/ビデオデバイスをこのポートに接続します。HDMI テクノロジは 1920x1080p の最大解像度をサポートできますが、サポートされる実際の解像度は使用するモニタによって異なります。

- HDMI デバイスを取り付けた後、サウンド再生のデフォルトのデバイスが HDMI デバイスであることを確認してください。(相手無名は、オペレーティングシステムによって異なることがあります。"詳細については、以下の図を参照してください")。
- HDMI オーディオ出力は AC3、DTS および 2 チャンネル LPCM 形式のみをサポートすることにご注意ください。(AC3 および DTS では、デコード用に外部デコーダを使用する必要があります)。

Windows XP では、Start>Control Panel>Sounds and Audio Devices>Audio を選択し、サウンド再生のデフォルトデバイスを Realtek HDA HDMI Out に設定します。

Windows Vista では、Start>Control Panel>Sound を選択し、Realtek HDMI Output を選択してから Set Default(デフォルトに設定)をクリックします。



(注) Intel G33 グラフィックスドライバの制限により、GA-G33M-S2H は Blu-ray/ HD DVD 形式の再生を現在サポートしていません。リリースされた時点での Intel の完全なドライバサポートは GIGABYTE Web サイトで更新されます。

④ 光 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタは、デジタル光オーディオをサポートする外部オーディオシステムにデジタルオーディオアウトを提供します。この機能を使用する前に、オーディオシステムが光デジタルオーディオインコネクタを提供していることを確認してください。

⑤ USB ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード / マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

⑥ IEEE 1394a ポート

IEEE 1394 ポートは IEEE 1394a 仕様をサポートし、高速、高いバンド幅およびホットプラグ機能を特徴としています。IEEE 1394a デバイスの場合、このポートを使用します。

⑦ eSATA 3Gb/s ポート

ICH9 サウスブリッジでサポートされる eSATA 3Gb/秒ポートは SATA 3Gb/秒標準に準拠し、SATA 1.5Gb/秒標準と互換性があります。このポートを使って外部 SATA デバイスまたは SATA ポートマルチプライヤを接続します。

⑧ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED のステータスを説明しています。

接続/アクティビティ		速度 LED:	アクティビティ LED:
		状態	説明
速度 LED	ディ LED	オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
		緑	100 Mbps のデータ転送速度
		オフ	10 Mbps のデータ転送速度

⑨ センター / サラウンドスピーカーアウトジャック (オレンジ)

このオーディオジャックを使用して、5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定のセンター / サブウーファスピーカーを接続します。

⑩ リアスピーカーアウトジャック (黒)

このオーディオジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定のリアスピーカーを接続します。

⑪ サイドスピーカーアウトジャック (グレー)

このオーディオジャックを使用して、7.1 チャンネルオーディオ設定のサイドスピーカーを接続します。

⑫ ラインインジャック (青)

デフォルトのラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑬ ラインアウトジャック (緑)

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定の前面スピーカーを接続します。



- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外しているとき、まずデバイスからケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外しているとき、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に振り動かさないでください。

⑥ マイクインジャック（ピンク）

デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。



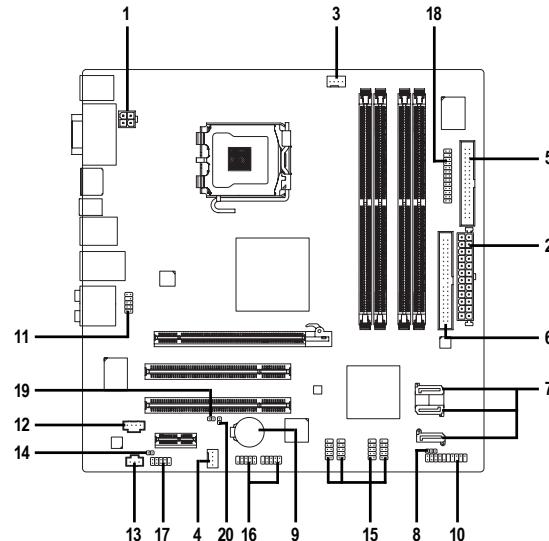
デフォルトのスピーカー設定の他に、①～⑩ オーディオジャックを設定し直してオーディオソフトウェア経由でさまざまな機能を実行することができます。マイクだけは、デフォルトのマイクインジャックに接続する必要があります（⑩）。2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定のセットアップに関する使用説明については、「第 5 章、「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオの設定」を参照してください。

デュアルディスプレイ設定:

このマザーボードには、ビデオ出力に対して DVI-D、HDMI および D-Sub の 3 つのポートが用意されています。以下の表では、サポートされるデュアルディスプレイ設定を示しています。

デュアル ディスプ レイ	結合	サポートまたは 非サポート
	DVI-D + D-Sub	はい
	DVI-D + HDMI	いいえ
	HDMI + D-Sub	はい

1-7 内部コネクタ



1) ATX_12V	11) F_AUDIO
2) ATX (電源コネクタ)	12) CD_IN
3) CPU_FAN	13) SPDIF_I
4) SYS_FAN	14) SPDIF_O
5) FDD	15) F_USB1/F_USB2/F_USB3/F_USB4
6) IDE	16) F1_1394/F2_1394
7) SATAII0/1/2	17) COMA
8) PWR_LED	18) LPT
9) BAT	19) CI
10) F_PANEL	20) CLR_CMOS

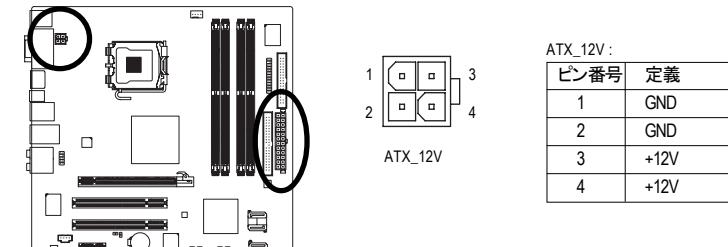
外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスをインストールした後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかりと接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクタと 2x12 メインの電源コネクタ)

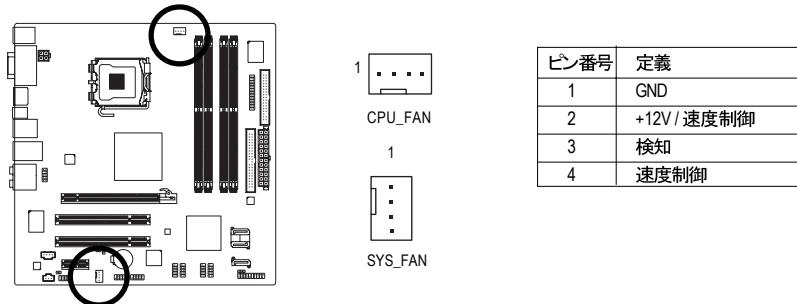
電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、絶対に確実な設計が施されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

- 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします（400W 以上）。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。
- メインの電源コネクタは、2x10 電源コネクタを持つ電源装置と互換性があります。2x12 電源装置を使用しているとき、マザーボードのメインの電源コネクタから保護カバーを取り外します。2x10 電源装置を使用しているとき、保護カバーの下のピンに電源装置のケーブルを挿入しないでください。



3/4) CPU_FAN/SYS_FAN (ファンヘッダ)

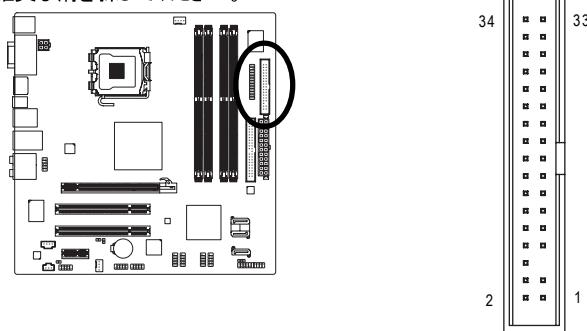
マザーボードには4ピンCPUファンヘッダ(CPU_FAN)および4ピンシステムファンヘッダ(SYS_FAN)が装備されています。それぞれのファンヘッダは+12Vの電源電圧を供給し、絶対に確実な挿入設計が施されています。ファンケーブルを接続しているとき、正しい方向に接続していることを確認してください。ほとんどのファンは、色分けされた電源コネクタワイヤ付きの設計です。赤い電源コネクタワイヤはプラスの接続を示し、+12V電圧を必要とします。黒いコネクタワイヤはアース線です。マザーボードはCPUファン速度制御をサポートし、ファン速度制御設計を搭載したCPUファンを使用する必要があります。最適な放熱を実現するために、シャーシ内部にシステムファンを取り付けるようにお勧めします。



- CPUおよびシステムが過熱しないように、ファンケーブルをファンヘッダに必ず接続してください。過熱すると、CPUが損傷したり、またはシステムがハングアップする結果となります。
- これらのファンヘッダは、設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンプのキャップを取り付けないでください。

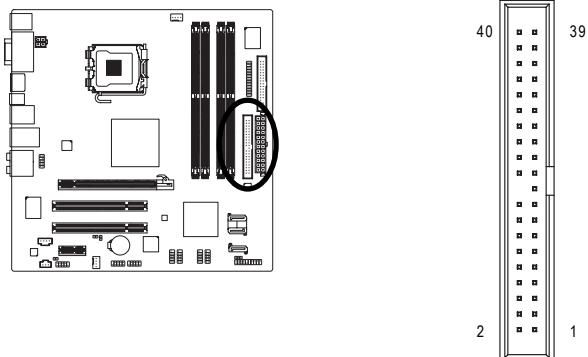
5) FDD (フロッピーディスクドライブコネクタ)

このコネクタは、フロッピーディスクドライブを接続するために使用されます。サポートされるフロッピーディスクドライブの種類には、360 KB、720 KB、1.2 MB、1.44 MB、および2.88 MBがあります。フロッピーディスクドライブを接続する前に、コネクタに絶対に確実な溝を探してください。



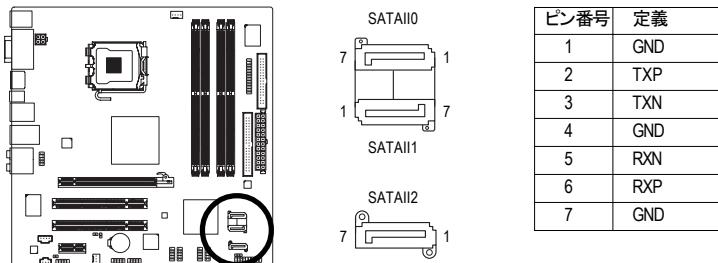
6) IDE (IDE コネクタ)

IDE コネクタは、ハードドライブや光ドライブなど最大 2 つの IDE デバイスをサポートします。IDE ケーブルを接続する前に、コネクタに絶対に確実な溝を探します。2 つの IDE デバイスを接続する場合、ジャンパとケーブル配線を IDE の役割に従って設定してください(たとえば、マスタまたはスレーブ)。(IDE デバイスのマスタ / スレーブ設定を実行する詳細については、デバイスマーカーの提供する使用説明書をお読みください)。



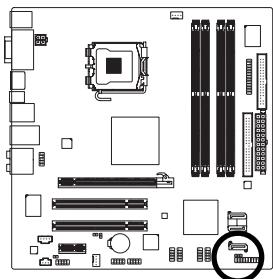
7) SATAII0/1/2 (SATA 3Gb/s コネクタ、ICH9 によって制御済み)

SATA コネクタは SATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。



8) PWR_LED (システム電源 LED ヘッダ)

このヘッダはシャーシにシステムの電源 LED を接続し、システムの電源ステータスを示すために使用できます。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S1 スリープ状態に入ると、LED は点滅を続けます。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。



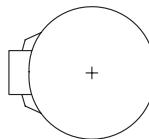
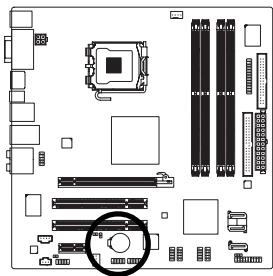
1 ①②③

ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

システムステータス	LED
S0	オン
S1	点滅
S3/S4/S5	オン

9) BAT(バッテリ)

バッテリは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリの電圧が低レベルまで下がったらバッテリを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかつたり失われる可能性があります。



バッテリを取り外すと、CMOS 値を消去できます:

1. コンピュータのパワーをオフにし、パワーコードを抜きます。
2. バッテリホルダからバッテリをそっと取り外し、1 分待ちます。
(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリホルダの正および負の端子に触れ、5 秒間ショートさせます)。
3. バッテリを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。

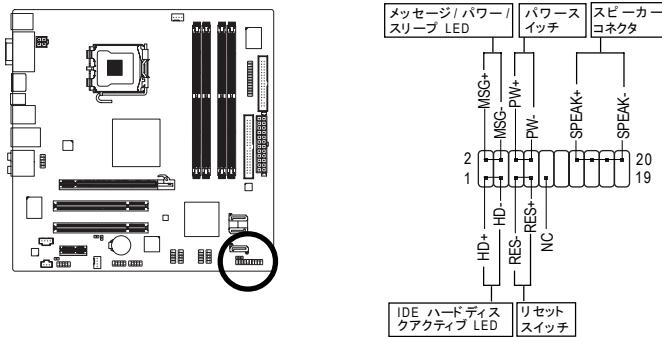


ご使用上の注意

- バッテリを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリを同等のバッテリと交換します。バッテリを正しくないモデルと交換すると、爆発する危険があります。
- バッテリを自分自身で交換できない場合、またはバッテリのモデルがはっきり分からぬ場合、購入店または地域代理店にお問い合わせください。
- バッテリを取り付けるとき、バッテリのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みバッテリは、地域の環境規制に従って処理する必要があります。

10) F_PANEL (正面パネルヘッダ)

シャーシ前面パネルのパワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカーおよびシステムステータスインジケータを、以下のピン配列に従ってこのヘッダに接続します。ケーブルを接続する前に、正と負のピンに注意してください。



- MSG (メッセージ / パワー / スリープ LED):

システムステータス	LED	説明
S0	オン	シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S1 スリープ状態に入ると、LED は点滅を続けます。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。
S1	点滅	
S3/S4/S5	オフ	

- PW (パワースイッチ):

シャーシ前面パネルのパワースイッチに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第 2 章、「BIOS セットアップ」。「電源管理のセットアップ」を参照してください)。

- SPEAK (スピーカー):

シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が 1 度鳴ります。問題を検出すると、BIOS は異なるパターンのビープ音を鳴らして問題を示します。ビープコードの詳細については、第 5 章「トラブルシューティング」を参照してください。

- HD (IDE ハードドライブアクティビティ LED)

シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きをおこなっているとき、LED はオンになります。

- RES (リセットスイッチ):

シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

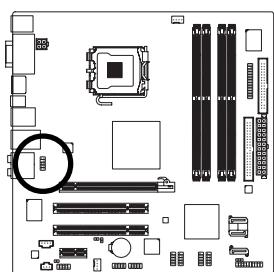
- NC:

接続なし

NOTE 前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

11) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することすらあります。



10
9
2
1

HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	FSENSE1
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	FSENSE2

AC'97 前面パネルオーディオの場合:

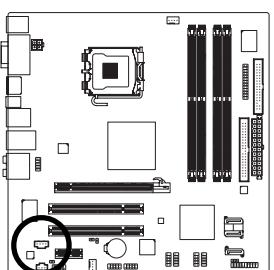
ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC 電源
4	NC
5	ラインアウト (右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト (左)
10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、デフォルトで HD オーディオをサポートしています。シャーシに AC'97 前面パネルのオーディオモジュールが搭載されている場合、オーディオソフトウェアを介して AC'97 機能をアクティブにする方法については、第 5 章「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオの設定」の使用説明を参照してください。
- AC'97 前面パネルのオーディオモジュールを使用しているとき、前面または背面パネルのオーディオコネクタを使用することができますが、両方のコネクタを同時に使用することはできません。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一プラグの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

12) CD_IN (CD 入力コネクタ)

光ドライブに付属のオーディオケーブルをヘッダに接続することができます。

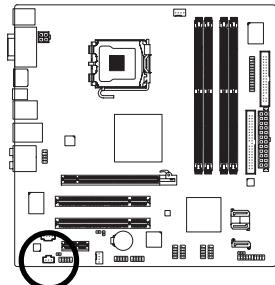


1

ピン番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

13) SPDIF_I (S/PDIF インヘッダ)

このヘッダはデジタル S/PDIF インをサポートし、オプションの S/PDIF インケーブルを介してデジタルオーディオアウトをサポートするオーディオデバイスに接続できます。オプションの S/PDIF インケーブルの購入については、地域の代理店にお問い合わせください。

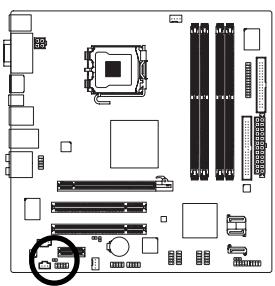


ピン番号	定義
1	電源
2	S/PDIFI
3	GND



14) SPDIF_O (S/PDIF アウトヘッダ)

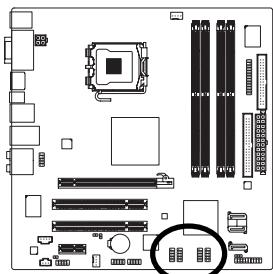
このヘッダはデジタル S/PDIF アウトをサポートし、デジタルオーディオ用の S/PDIF デジタルオーディオケーブル(拡張カードに付属)をマザーボードから、グラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードに接続します。たとえば、グラフィックスカードの中には、HDMI ディスプレイをグラフィックスカードに接続して HDMI ディスプレイから同時にデジタルオーディオを出力する場合、マザーボードからグラフィックスカードにデジタルオーディオを出力するために、S/PDIF デジタルオーディオケーブルを使用するよう求めます。S/PDIF デジタルオーディオケーブルの接続に関する詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。



ピン番号	定義
1	S/PDIFO
2	GND

15) F_USB1/F_USB2/F_USB3/F_USB4 (USB ヘッダ、黄)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。



10 9
2 1

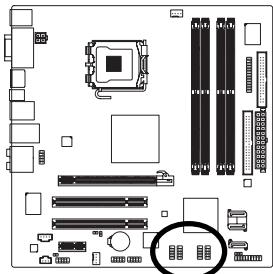
ピン番号	定義
1	電源(5V)
2	電源(5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、必ずコンピュータのパワーをオフにし電源コードをコンセントから抜いてください。

16) F1_1394/F2_1394 (IEEE 1394a ヘッダ、グレー)

ヘッダは IEEE 1394a 仕様に準拠しています。各 IEEE 1394a ヘッダは、オプションの IEEE 1394a ブラケットを介して 1 つの IEEE 1394a ポートを提供します。オプションの IEEE 1394a ブラケットを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。



9 10 1
1 2

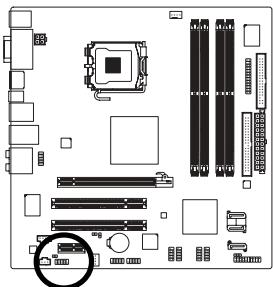
ピン番号	定義
1	TPA+
2	TPA-
3	GND
4	GND
5	TPB+
6	TPB-
7	電源(12V)
8	電源(12V)
9	ピンなし
10	GND



- USB ブラケットのケーブルを IEEE 1394a ヘッダに差し込まないでください。
- IEEE 1394a ブラケットを取り付ける前に、IEEE 1394a ブラケットが損傷しないように、必ずコンピュータのパワーをオフにし電源コードをコンセントから抜いてください。
- IEEE 1394a デバイスを接続するには、デバイスケーブルの一方の端をコンピュータに接続し、ケーブルのもう一方の端を IEEE 1394a デバイスに接続します。ケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。

17) COMA (シリアルポートコネクタ)

COMA ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。

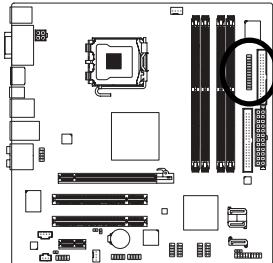


2 1 10 9

ピン番号	定義
1	NDCDA-
2	NSINA
3	NSOUTA
4	NDTRA-
5	GND
6	NDSRA-
7	NRTSA-
8	NCTSA-
9	NRIA-
10	ピンなし

18) LPT (パラレルポートヘッダ)

LPT ヘッダは、オプションの LPT ポートケーブルを介して 1 つのパラレルポートを提供します。オプションの LPT ポートケーブルを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。

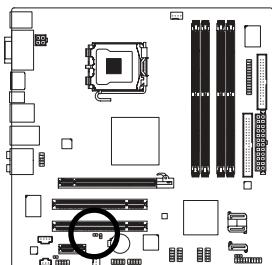


26 25
2 1

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	STB-	14	GND
2	AFD-	15	PD6
3	PD0	16	GND
4	ERR-	17	PD7
5	PD1	18	GND
6	INIT-	19	ACK-
7	PD2	20	GND
8	SLIN-	21	BUSY
9	PD3	22	GND
10	GND	23	PE
11	PD4	24	ピンなし
12	GND	25	SLCT
13	PD5	26	GND

19) CI (シャーシ侵入ヘッダ)

このマザーボードには、シャーシカバーが取り外された場合に検出するシャーシ検出機能が搭載されています。この機能には、シャーシ侵入検出設計を施したシャーシが必要です。

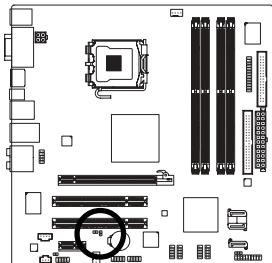


□ 1

ピン番号	定義
1	信号
2	GND

20) CLR_CMOS (CMOS ジャンパの消去)

このジャンパを使用して CMOS 値 (例えば、日付情報や BIOS 設定) を消去し、CMOS を工場出荷時の設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ジャンパキャップを 2 つのピンに取り付けて 2 つのピンを一時的にショートするか、ドライバーのような金属製物体を使用して 2 つのピンに数秒間触れます。



□ オープン : ノーマル

□ ショート : CMOS 値の消去



- CMOS 値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CMOS 値を消去した後コンピュータのパワーをオンにする前に、必ずジャンパからジャンパキャップを取り外してください。取り外さないと、マザーボードが損傷する原因となります。
- システムが再起動した後、BIOS セットアップに移動して工場出荷時の設定をロードするか (Load Optimized Defaults) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章、「BIOS セットアップ」を参照してください)。

第 2 章 BIOS セットアップ

BIOS (基本入出力システム) は、マザーボードの CMOS にしすテムのハードウェアパラメータを記録します。その主な機能には、システム起動時の POST (パワーインオフテスト) の実行、システムパラメータの保存およびオペレーティングシステムのロードなどがあります。BIOS には BIOS 起動プログラムが組み込まれており、ユーザーが基本システム設定を変更したり特定のシステム機能をアクティブにできるようになっています。パワーがオフの場合は、マザーボードのバッテリが CMOS に必要な電力を供給して CMOS の設定値を維持しています。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、パワーがオンになっているとき POST 中に <Delete> キーを押します。詳細な BIOS セットアップメニュー オプションを表示するには、BIOS セットアッププログラムのメインメニューで <Ctrl> + <F1> を押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティを使用します。

- Q-Flash で、オペレーティングシステムに入らずに、BIOS を素早く簡単にアップグレードまたはバックアップできます。
- @BIOS は Windows ベースのユーティリティで、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索してダウンロードしたり、BIOS を更新したりします。

Q-Flash および @BIOS ユーティリティの使用に関する使用説明については、第 4 章、「BIOS 更新ユーティリティ」を参照してください。

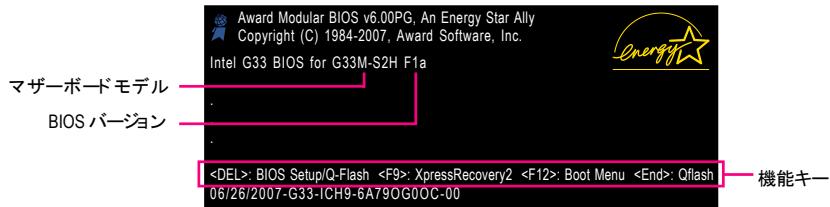


ご使用上の注意

- BIOS フラッシュは危険なため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生した場合、BIOS をフラッシュしないようにお勧めします。BIOS をフラッシュするには、注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。
- BIOS は POST 中にビープコードを鳴らします。ビープコードの説明については、第 5 章「トラブルシューティング」を参照してください。
- システムが不安定になったりその他の予期せぬ結果を引き起こすことがあるため、(必要でない場合) デフォルトの設定を変更しないようにお勧めします。設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードをデフォルト値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「ロード最適化既定値」セクションまたは第 1 章のバッテリ / CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください)。

2-1 起動スクリーン

コンピュータが起動するとき、以下のスクリーンが表示されます。



機能キー:

 : BIOS Setup/Q-Flash

<Delete> キーを押して BIOS セットアップに入るか、 BIOS セットアップで Q-Flash ユーティリティにアクセスします。

<F9> : Xpress Recovery2

Xpress Recovery2 に入りマザーボードドライバディスクを使用してハードドライブのデータをバックアップしている場合、 POST 中に <F9> キーを使用して XpressRecovery2 にアクセスすることができます。詳細については、第 4 章、「Xpress Recovery2」を参照してください。

<F12> : Boot Menu

起動メニューにより、 BIOS セットアップに入ることなく最初のブートデバイスを設定できます。ブートメニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を使用して最初の起動デバイスを選択し、次に <Enter> を押して受け入れます。起動メニューを終了するには、 <Esc> を押します。システムは、起動メニューで設定されたデバイスから直接起動します。

注：起動メニューの設定は、一度だけ有効になります。システムが再起動した後でも、デバイスの起動順序は BIOS セットアップ設定に基づいた順序になっています。必要に応じて、最初の起動デバイスを変更するために起動メニューに再びアクセスすることができます。

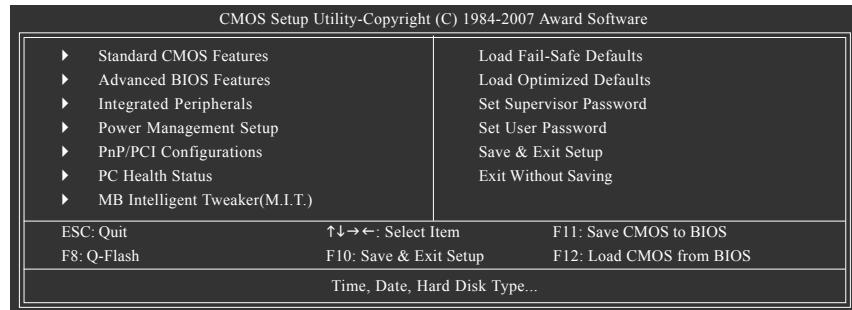
<End>: Q-Flash

<End> キーを押すと、 BIOS セットアップに入らずに直接 Q-Flash ユーティリティにアクセスできます。

2-2 メインメニュー

BIOS セットアッププログラムに入ると、(以下に表示されたように) メインメニューがスクリーンに表示されます。矢印キーでアイテム間を移動し、<Enter>を押してアイテムを受け入れるか、サブメニューに入ります。

(サンプルの BIOS バージョン: F1a)



BIOS セットアッププログラムの機能キー

<↑><↓><←><→>	選択バーを移動してアイテムを選択します
<Enter>	コマンドを実行するか、サブメニューに入ります
<Esc>	メインメニュー: BIOS セットアッププログラムを終了します サブメニュー: 現在のサブメニューを終了します
<Page Up>	数値を多くするか、変更します
<Page Down>	数値を少なくするか、変更します
<F1>	機能キーの説明を表示します
<F2>	カーソルを右のアイテムヘルプブロックに移動します (サブメニューのみ)
<F5>	現在のサブメニューに対して前の BIOS 設定を復元します
<F6>	現在のサブメニューに対して、BIOS のフェールセーフ既定値設定をロードします
<F7>	現在のサブメニューに対して、BIOS の最適化既定値設定をロードします
<F8>	Q-Flash ユーティリティにアクセスします
<F9>	システム情報を表示します
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します
<F11>	CMOS を BIOS に保存します
<F12>	BIOS から CMOS をロードします

メインメニューのヘルプ

ハイライトされたセットアップオプションのオンスクリーン説明は、メインメニューの最下行に表示されます。

サブメニューヘルプ

サブメニューに入っている間、<F1> を押してメニューで使用可能な機能キーのヘルプスクリーン (一般ヘルプ) を表示します。<Esc> を押してヘルプスクリーンを終了します。各アイテムのヘルプは、サブメニューの右側のアイテムヘルプブロックにあります。



- ・ メインメニューまたはサブメニューに目的の設定が見つからない場合、<Ctrl>+<F1> を押して詳細オプションにアクセスします。
- ・ システムが安定しないとき、Load Optimized Defaults アイテムを選択してシステムをその既定値に設定します。
- ・ この章で説明した BIOS セットアップメニューは、参照にすぎず BIOS のバージョンによって異なることがあります。

- <F11> および <F12> キーの機能 (メインメニューの場合のみ)
 - ▶ F11 : Save CMOS to BIOS
この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できます。最大 8 つのプロファイル (プロファイル 1-8) を作成し、各プロファイルに名前を付けることができます。まず、プロファイル名を入力し (デフォルトのプロファイル名を消去するには、SPACE キーを使用します)、次に <Enter> を押して完了します。
 - ▶ F12 : Load CMOS from BIOS
システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避ることができます。まず、ロードするプロファイルを選択し、次に <Enter> を押して完了します。
- Standard CMOS Features
このメニューを使用してシステムの日時、ハードドライブのタイプ、フロッピーディスクドライブのタイプ、およびシステム起動を停止するエラーのタイプを設定します。
- Advanced BIOS Features
このメニューを使用してデバイスの起動順序、CPU で使用可能な拡張機能、および 1 次ディスプレイアダプタを設定します。
- Integrated Peripherals
このメニューを使用して IDE、SATA、USB、統合オーディオ、および統合 LAN などのすべての周辺機器を設定します。
- Power Management Setup
このメニューを使用して、すべての省電力機能を設定します。
- PnP/PCI Configurations
このメニューを使用して、システムの PCI および PnP リソースを設定します。
- PC Health Status
このメニューを使用して自動検出されたシステム/CPU 温度、システム電圧およびファン速度に関する情報を表示します。
- MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)
このメニューを使用してクロック、CPU の周波数および電圧、メモリなどを設定します。
- Load Fail-Safe Defaults
フェールセーフ既定値はもっとも安定した、最適パフォーマンスのシステム操作を実現する工場出荷時の設定です。
- Load Optimized Defaults
最適化既定値は、最適パフォーマンスのシステム操作を実現する工場出荷時設定です。
- Set Supervisor Password
パスワードの変更、設定、または無効化。この設定により、システムと BIOS セットアップへのアクセスを制限できます。
- Set User Password
パスワードの変更、設定、または無効化。この設定により、システムと BIOS セットアップへのアクセスを制限できます。
ユーザー-パスワードは、BIOS 設定を表示するだけで変更は行いません。
- Save & Exit Setup
BIOS セットアッププログラムで行われたすべての変更を CMOS に保存し、BIOS セットアップを終了します。
(<F10> を押してもこのタスクを実行できます)。
- Exit Without Saving
すべての変更を破棄し、前の設定を有効にしておきます。確認メッセージに対して <Y> を押すと、BIOS セットアップが終了します。(<Esc> を押してもこのタスクを実行できます)。

2-3 Standard CMOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2007 Award Software Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy) Time (hh:mm:ss)	Thu, Jun 28 2007 10:31:24	Item Help Menu Level▶
► IDE Channel 0 Master	[None]	
► IDE Channel 1 Master	[None]	
► IDE Channel 2 Master	[None]	
► IDE Channel 3 Master	[None]	
► IDE Channel 4 Master	[None]	
► IDE Channel 4 Slave	[None]	
Drive A Floppy 3 Mode Support	[1.44M, 3.5"] [Disabled]	
Halt On	[All, But Keyboard]	
Base Memory Extended Memory Total Memory	640K 510M 512M	
↑→←: Move F5: Previous Values	+/-PU/PD: Value F6: Fail-Safe Defaults	F10: Save ESC: Exit F1: General Help F7: Optimized Defaults

⌚ Date

システムの日付を設定します。日付形式は週(読み込み専用)、月、日および年です。
目的のフィールドを選択し、上または下矢印キーを使用して日付を設定します。

⌚ Time

システムの時刻を設定します。例：1 p.m. は 13:0:0 です。目的のフィールドを選択し、
上または下矢印キーを使用して時刻を設定します。

⌚ IDE Channel 0/1 Master/Slave

► IDE HDD Auto-Detection

<Enter> を押して、このチャンネルの IDE/SATA デバイスのパラメータを自動検出します。

► IDE Channel 0,1 Master

以下の 3 つの方法のいずれかを使用して、IDE/SATA デバイスを設定します：

- Auto POST 中に、BIOS により IDE/SATA デバイスが自動的に検出されます。
(既定値)
- None IDE/SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に
設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシス
テムの起動を高速化します。
- Manual ハードドライブのアクセスモードが **CHS** に設定されているとき、ハ
ードドライブの仕様を手動で入力します。

► Access Mode

ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプションは、Auto
(既定値)、CHS、LBA、Large で

⌚ IDE Channel 2, 3 Master, IDE Channel 4 Master/Slave

► IDE Auto-Detection

<Enter> を押して、このチャンネルの IDE/SATA デバイスのパラメータを自動検出します。

► Extended IDE Drive 以下の 2 つの方法のいずれかを使用して、IDE/SATA デバイスを設
定します：

- Auto POST 中に、BIOS により IDE/SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- None IDE/SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に
設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシス
テムの起動を高速化します。

► Access Mode

ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプションは、Auto
(既定値)、Large です。

以下のフィールドには、お使いのハードドライブの仕様が表示されます。パラメータを手動で入力する場合、ハードドライブの情報を参照してください。

- » Capacity 現在取り付けられているハードドライブのおおよその容量。
- » Cylinder シリンダー数。
- » Head ヘッド数。
- » Precomp 事前補正の書き込みシリンドル。
- » Landing Zone ランディングゾーン。
- » Sector セクタ数。

☞ Drive A

システムに取り付けられているフロッピーディスクドライブのタイプを選択します。フロッピーディスクドライブを取り付けていない場合、このアイテムを **None** に設定します。オプションは、None、360K/5.25"、1.2M/5.25"、720K/3.5"、1.44M/3.5"、2.88M/3.5" です。

☞ Floppy 3 Mode Support

取り付けられたフロッピーディスクドライブが 3 モードのフロッピーディスクドライブであるか、日本の標準フロッピーディスクドライブであるかを指定します。オプションは、Disabled、ドライブ A です。

☞ Halt on

システムが POST 中にエラーに対して停止するかどうかを決定します。

- » No Errors システム起動は、エラーに対して停止しません。
- » All Errors BIOS は、システムが停止する致命的でないエラーを検出します。
- » All, But Keyboard キーボードエラー以外のエラーでシステムは停止します。(既定値)
- » All, But Diskette フロッピーディスクドライブエラー以外のエラーでシステムは停止します。
- » All, But Disk/Key キーボードエラー、またはフロッピーディスクドライブエラー以外のエラーでシステムは停止します。

☞ Memory

これらのフィールドは読み込み専用で、BIOS POST で決定されます。

- » Base Memory コンベンショナルメモリとも呼ばれています。一般に、640 KB は MS-DOS オペレーティングシステム用に予約されています。
- » Extended Memory 拡張メモリ量。
- » Total Memory システムに取り付けられたメモリの総量。

2-4 Advanced BIOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2007 Award Software Advanced BIOS Features		
▶ Hard Disk Boot Priority First Boot Device [Press Enter] Second Boot Device [Floppy] Third Boot Device [Hard Disk] Password Check [CDROM] HDD S.M.A.R.T. Capability [Setup] CPU Hyper-Threading (注) Limit CPUID Max. to 3 (注) No-Execute Memory Protect (注) CPU Enhanced Halt (C1E)(注) CPU Thermal Monitor 2(TM2)(注) CPU EIST Function (注) Virtualization Technology (注) Init Display First [Disabled] Onboard VGA [Enabled] On-Chip Frame Buffer Size [PCI] [Enable If No Ext PEG] [8MB+1~2MB for GTT]	Item Help Menu Level▶	

↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

☞ Hard Disk Boot Priority

取り付けられたハードドライブからオペレーティングシステムをロードする順序が指定されます。上または下矢印キーを使用してハードドライブを選択し、次にプラスキー <+> (または <PageUp>) またはマイナスキー <-> (または <PageDown>) を押してリストの上または下に移動します。このメニューを終了するには、<ESC> を押します。

☞ First/Second/Third Boot Device

使用可能なデバイスから起動順序を指定します。上または下矢印キーを使用してデバイスを選択し、<Enter> を押して受け入れます。オプションは、フロッピー、LS120、ハードディスク、CDROM、ZIP、USB-FDD、USB-ZIP、USB-CDROM、USB-HDD、Legacy LAN、Disabled (無効) です。

☞ Password Check

パスワードは、システムが起動するたびに必要か、または BIOS セットアップに入るときのみ必要かを指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの Set Supervisor/User Password アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。(既定値)
- ▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。

☞ HDD S.M.A.R.T. Capability

ハードドライブの S.M.A.R.T. (セルフモニタリング・アナリシス・アンド・リポートティング・テクノロジー) 機能の有効 / 無効を切り替えます。この機能により、システムはハードドライブの読み込み / 書き込みエラーを報告し、サードパーティのハードウェアモニターティリティがインストールされているとき、警告を発行することができます。(既定値: Disabled)

☞ CPU Hyper-Threading (注)

Intel® ハイパースレッディングテクノロジの有効 / 無効を切り替えます。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ作動します。
(既定値: Enabled)

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。

Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- ☞ **Limit CPUID Max. to 3** (注)
CPUID の最大値を制限するかどうかを決定します。Windows XP オペレーティングシステムの場合このアイテムを **Disabled** に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムの場合このアイテムを **Enabled** に設定します。(既定値: **Disabled**)
- ☞ **No-Execute Memory Protect** (注)
Intel® Execute Disable Bit 機能の有効 / 無効を切り替えます。この機能により、コンピュータの保護を強化し、そのサポートされるソフトウェアやシステムで作業しているとき、ウイルスや悪意のあるバッファオーバーフロー攻撃への露出を低減することができます。(既定値: **Enabled**)
- ☞ **CPU Enhanced Halt (C1E)** (注)
Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能、つまりシステム停止状態時の CPU 省電力機能の有効 / 無効を切り替えます。有効に設定されているとき、システム停止状態の間 CPU のコア周波数と電圧を下げて消費電力を抑えます。(既定値: **Enabled**)
- ☞ **CPU Thermal Monitor 2 (TM2)** (注)
Intel® CPU Thermal Monitor (TM2) 機能、つまり CPU の過熱保護機能の有効 / 無効を切り替えます。有効に設定されているとき、CPU が過熱しているとき CPU のコア周波数と電圧を下げます。(既定値: **Enabled**)
- ☞ **CPU EIST Function** (注)
Intel SpeedStep Technology (EIST) の有効 / 無効を切り替えます。CPU ローディングにより、Intel® EIST テクノロジは CPU 電圧とコア周波数を動的にかつ効率的に下げて平均の消費電力と熱発生量を抑えます。(既定値: **Enabled**)
- ☞ **Virtualization Technology** (注)
Intel® 仮想化テクノロジの有効 / 無効を切り替えます。Intel® 仮想化テクノロジによって強化された仮想化により、プラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行することができます。仮想化では、1 つのコンピュータシステムが複数の仮想システムとして機能します。(既定値: **Enabled**)
- ☞ **Init Display First**
取り付けられた PCI グラフィックスカードまたは PCI Express グラフィックスカードから、モニタディスプレイの最初の表示を指定します、オンボード VGA。
 - PCI 最初のディスプレイとして PCI グラフィックスカードを設定します。(既定値)
 - Onboard 最初のディスプレイとしてオンボード VGA を設定します。
 - PEG2 2 番目のディスプレイとして PCIe x16 スロット (PCIE_16_2) の PCI Express グラフィックスカードを設定します。
- ☞ **Onboard VGA**
オンボードオーディオ機能の有効 / 無効を切り替えます。
 - Enable If No Ext PEG
PCI Express VGA カードが取り付けられていない場合のみ、オンボード VGA をアクティブにします。(既定値)
 - Always Enable
PCI Express カードが取り付けられているにせよ、常にオンボード VGA をアクティブにします。デュアル表示設定をセットアップする場合、このアイテムを **Always Enable** に設定してください。
- ☞ **On-Chip Frame Buffer Size**
フレームバッファサイズは、オンボードグラフィックスコントローラだけに割り当てられたシステムメモリの総量です。たとえば、MS-DOS はディスプレイに対してこのメモリのみを使用します。オプションは、8MB+1~2MB for GTT(既定値)、1MB+1~2MB for GTT^{*}。
(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。 Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

2-5 Integrated Peripherals

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2007 Award Software		
Integrated Peripherals		
SATA AHCI Mode	[Disabled]	Item Help
SATA Port0-1 Native Mode	[Disabled]	Menu Level▶
USB Controller	[Enabled]	
USB 2.0 Controller	[Enabled]	
USB Keyboard Support	[Disabled]	
USB Mouse Support	[Disabled]	
Legacy USB storage detect	[Enabled]	
Azalia Codec	[Auto]	
Onboard H/W 1394	[Enabled]	
Onboard H/W LAN	[Enabled]	
▶ SMART LAN	[Press Enter]	
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]	
Onboard IDE Controller	[Enabled]	
Onboard Serial Port 1	[3F8/IRQ4]	
Onboard Parallel Port	[378/IRQ7]	
Parallel Port Mode	[SPP]	

↑→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

☞ SATA /AHCI Mode (Intel ICH9 サウスブリッジ)

Intel ICH9 サウスブリッジに統合された SATA コントローラ用の RAID の有効 / 無効を切り替えます。

▶ Disabled SATA コントローラを PATA モードに設定します。(既定値)

▶ AHCI^(注) SATA コントローラを AHCI モードに設定します。AHCI(拡張ホストコントローラインターフェイス)は、ストレージドライバがネーティブコマンドキューリングおよびホットプラグなどの拡張シリアル ATA 機能を有効にするインターフェイス仕様です。

☞ SATA Port0-1 Native Mode (Intel ICH9 サウスブリッジ)

統合された SATA コントローラのオペレーティングモードを指定します。

▶ Disabled SATA コントローラにより、レガシー IDE モードを操作します。

レガシーモードで、SATA コントローラは他のデバイスと共有できない専用の IRQ を使用します。たとえば Windows 9X/ME などのネーティブモードをサポートしない、オペレーティングシステムをインストールする場合、このオプションを Disabled(無効) に設定します。(既定値)

▶ Enabled SATA コントローラにより、ネーティブ IDE モードを操作します。

たとえば Windows XP/2000 などのネーティブモードをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合、ネーティブ IDE モードを有効にします。

☞ USB Controller

統合された USB コントローラの有効 / 無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

Disabled は、以下の USB 機能をすべてオフにします。

☞ USB 2.0 Controller

統合された USB 2.0 コントローラの有効 / 無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

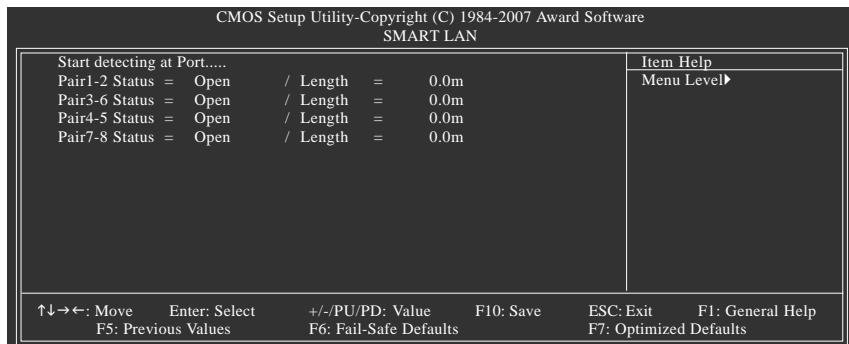
☞ USB Keyboard Support

MS-DOS で USB キーボードを使用できるようにします。(既定値: Disabled)

(注) Windows® Vista® オペレーティングシステムでのみサポートされます。

- ☞ **USB Mouse Support**
MS-DOS で USB マウスを使用できるようにします。(既定値: Disabled)
- ☞ **Legacy USB storage detect**
POST の間 USB フラッシュドライブや USB ハードドライブを含め、USB ストレージデバイスを検出するかどうかを決定します。(既定値: Enabled)
- ☞ **Azalia Codec**
オンボードオーディオ機能の有効 / 無効を切り替えます。(既定値: Auto)
オンボードオーディオを使用する代わりにサードパーティ製のアドインオーディオカードを取り付ける場合、このアイテムを Disabled に設定します。
- ☞ **Onboard H/W 1394**
オンボード IEEE 1394 機能の有効 / 無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Onboard H/W LAN**
オンボード LAN 機能の有効 / 無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
オンボード LAN を使用する代わりにサードパーティ製のアドインネットワークカードを取り付ける場合、このアイテムを Disabled に設定します。

☞ SMART LAN (LAN ケーブル診断機能)



このマザーボードは、付属の LAN ケーブルのステータスを検出するために設計されたケーブル診断機能を組み込んでいます。この機能は、配線問題を検出し、障害またはショートまでのおよその距離を報告します。LAN ケーブルの診断については、以下の情報を参照してください。

- ☞ **LAN ケーブルが接続しているとき ...**
LAN ケーブルがマザーボードに接続されていない場合、ワイヤの 4 つのペアの Status フィールドがすべて表示されます。Open および Length フィールドは、上の図で示すように 0.0m を示しています。
- ☞ **LAN ケーブルが正常に機能しないとき ...**
Gigabit ハブまたは 10/100 Mbps ハブに接続された LAN ケーブルでケーブル問題が検出されない場合、以下のメッセージが表示されます：

```
Start detecting at Port....  
Link Detected --> 100Mbps  
Cable Length= 30m
```

- ▶▶ Link Detected 伝送速度を表示します
- ▶▶ Cable Length 接続された LAN ケーブルのおおよその長さを表示します。

注 : Gigabit ハブは MS-DOS モードでは 10/100Mbps の速度でのみ作動します。Windows では、または LAN Boot ROM がアクティブになっているときは 10/100/1000Mbps の標準速度で作動します。

☞ ケーブル問題が発生したとき ...

ワイヤの特定のペアでケーブル問題が発生した場合、Status フィールドには Short と表示され、表示された長さが障害またはショートまでのおよその距離になります。

例: Pair1-2 Status = Short / Length = 1.6m

説明: 障害またはショートは、ペア 1-2 の約 1.6m で発生しました。

注 : ペア 4-5 とペア 7-8 は 10/100 Mbps 環境では使用されないため、その Status フィールドは Open と表示され、表示された長さが接続された LAN ケーブルのおおよその長さとなります。

☞ Onboard LAN Boot ROM

オンボード LAN チップに統合された起動 ROM をアクティブにするかどうかを決定します。
(既定値: Disabled)

☞ Onboard IDE Controller (JMicron 368 チップ)

JMicron 368 チップに統合された IDE コントローラの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ Onboard Serial Port 1

最初のシリアルポートの有効/無効を切り替え、そのベース I/O アドレスと対応する割り込みを指定します。オプションは、Auto、3F8/IRQ4 (既定値)、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3、Disabled です。

☞ Onboard Parallel Port

オンボードパラレルポート (LPT) の有効/無効を切り替え、そのベース I/O アドレスと対応する割り込みを指定します。オプションは、378/IRQ7 (既定値)、278/IRQ5、3BC/IRQ7、Disabled です。

☞ Parallel Port Mode

オンボードパラレル (LPT) ポートのオペレーティングモードを選択します。オプションは、SPP (標準パラレルポート) (既定値)、EPP (拡張パラレルポート)、ECP (拡張機能ポート)、ECP+EPP です。

2-6 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2007 Award Software Power Management Setup		
		Item Help
ACPI Suspend Type	[S3(STR)]	
Soft-Off by PWR-BTTN	[Instant-Off]	
PME Event Wake Up	[Enabled]	
Power On by Ring	[Enabled]	
Resume by Alarm	[Disabled]	
x Date (of Month) Alarm	Everyday	
x Time (hh:mm:ss) Alarm	0:0:0	
HPET Support (注)	[Enabled]	
HPET Mode (注)	[32-bit mode]	
Power On By Mouse	[Disabled]	
Power On By Keyboard	[Disabled]	
x KB Power ON Password	Enter	
AC Back Function	[Soft-Off]	

↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

☞ ACPI Suspend Type

システムがサスペンドに入るとき、ACPI スリープ状態を指定します。

- ▶ S1(POS) システムは、ACPI S1(パワーオンサスペンド)スリープ状態に入ります。S1スリープ状態で、システムはサスペンド状態に入っていると表示され、低出力モードに留まります。システムは、いつでも復元できます。
- ▶ S3(STR) システムは、ACPI S3(RAM にサスペンド)スリープ状態に入ります(既定値)。S3 スリープ状態で、システムはオフとして表示され、S1 状態の場合より電力を消費しません。呼び起しデバイスまたはイベントにより信号を送られると、システムは停止したときの状態に戻ります。

☞ Soft-Off by PWR-BTTN

パワー ボタンを使用して、MS-DOS モードでコンピュータをオフにする方法を設定します。

- ▶ Instant-Off パワー ボタンを押すと、システムは直ちにオフになります。(既定値)
- ▶ Delay 4 Sec. パワー ボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワー ボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

☞ PME Event Wake Up

PCI または PCIe デバイスからの呼び起し信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起します。注：この機能を使用するには、5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。(既定値: Enabled)

☞ Power On by Ring

呼び起し機能をサポートするモデムからの呼び起し信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起します。(既定値: Enabled)

(注) Windows® Vista® オペレーティングシステムでのみサポートされます。

☞ **Resume by Alarm**

希望するときにシステムのパワーをオンにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

有効になっている場合、日付と時刻を以下のように設定してください:

► Date (of Month) Alarm : 毎日または指定された日のそれぞれの時刻に、システムのパワーをオンにします。

► Time (hh: mm: ss) Alarm : システムのパワーを自動的にオンにする時刻を設定します。

注: この機能を使用しているとき、不適切にオペレーティングシステムから遮断したり AC 電源からコードを抜かないでください。そうでないと、設定は有効になりません。

☞ **HPET Support (注)**

Windows® Vista® オペレーティングシステムに対して HPET (高精度イベントタイマー) の有効 / 無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

☞ **HPET Mode (注)**

Windows® Vista® オペレーティングシステムに対して、HPET モードを選択します。32-bit

Windows® Vista® をインストールしているときは 32 ビットモードを選択し、64-bit

Windows® Vista® をインストールしているときは 64 モードを選択します。

(既定値: 32 ビットモード)

☞ **Power On By Mouse**

PS/2 マウス呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。

注: この機能を使用するには、5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。

► Disabled この機能を無効にします。(既定値)

► Double Click PS/2 マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

☞ **Power On By Keyboard**

PS/2 キーボード呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。

注: 5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。

► Disabled この機能を無効にします。(既定値)

► Password 1~5 文字でシステムをオンにするためのパスワードを設定します。

► Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押すと、システムがオンになります。

☞ **KB Power ON Password**

Power On by Keyboard が Password に設定されているとき、パスワードを設定します。

このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注: パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

☞ **AC Back Function**

AC 電力が失われたときから電力を回復した後のシステムの状態を決定します。

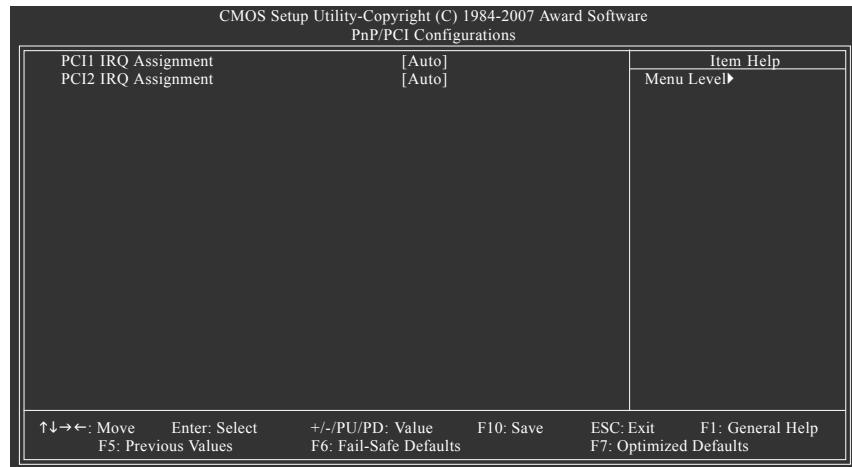
► Soft-Off AC 電力を回復した時点でも、システムはオフになっています。(既定値)

► Full-On AC 電力を回復した時点で、システムはオンになります。

► Memory AC 電力が回復した時点で、システムは電力を失う直前の状態に戻ります。

(注) Windows® Vista® オペレーティングシステムでのみサポートされます。

2-7 PnP/PCI Configurations



☞ PCI1 IRQ Assignment

- ▶ Auto BIOS は IRQ を最初の PCI スロットに自動的に割り当てます。
(既定値)
- ▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を最初の PCI スロットに割り当てます。

☞ PCI2 IRQ Assignment

- ▶ Auto BIOS は IRQ を 2 番目の PCI スロットに自動的に割り当てます。
(既定値)
- ▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を 2 番目の PCI スロットに割り当てます。

2-8 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2007 Award Software		
PC Health Status		
		Item Help
Reset Case Open Status	[Disabled]	
Case Opened	No	Menu Level▶
Vcore	OK	
DDR18V	OK	
+3.3V	OK	
+12V	OK	
Current System Temperature	47°C	
Current CPU Temperature	47°C	
Current CPU FAN Speed	3375 RPM	
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
Smart FAN Control Method	[Auto]	
Smart FAN Control Mode	[Auto]	

↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

☛ Reset Case Open Status

前のシャーシ侵入ステータスの記録を保存または消去します。 Enabled では前のシャーシ侵入ステータスのレコードを消去し、 Case Opened フィールドが次に起動するとき "No" を表示します。(既定値: Disabled)

☛ Case Opened

マザーボード CI ヘッダに接続されたシャーシ侵入検出デバイスの検出ステータスを表示します。システムシャーシカバーを取り外すと、このフィールドは "Yes" を表示し、カバーを取り外さない場合、 "No" を表示します。シャーシ侵入ステータスのレコードを消去するには、 Reset Case Open Status を Enabled に設定し、設定を CMOS に保存し、システムを再起動します。

☛ Current Voltage(V) Vcore/DDR18V/+3.3V/+12V

現在のシステム電圧を表示します。

☛ Current System/CPU Temperature

現在のシステム /CPU 温度を表示します。

☛ Current CPU/SYSTEM FAN Speed (RPM)

現在のシステム /CPU ファン速度を表示します。

☛ CPU Warning Temperature

CPU 温度の警告しきい値を設定します。 CPU 温度がしきい値を超えると、 BIOS は警告音を出します。オプションは、 Disabled (既定値)、 60°C/140°F, 70°C/158°F, 80°C/176°F, 90°C/194°F です。

☛ CPU/SYSTEM FAN Fail Warning

CPU システムファンが接続されていない場合またはエラーの場合、システムは警告音を出します。これが発生したときは、ファンの状態またはファン接続をチェックしてください。(既定値: Disabled)

☞ Smart FAN Control Method^(注)

CPU のファン速度を制御する方法を指定します。

- ▶ Auto BIOS は CPU ファン速度を制御します。(既定値)
- ▶ Intel(R) QST Intel Quiet System Technology (QST) によって CPU ファン速度を制御します。この機能では、マザーボードドライバディスクから HECI (Intel ホスト埋め込み制御インターフェイス) をインストールする必要があります。
- ▶ Legacy CPU ファンが、CPU 温度に従って異なる速度で作動します。
- ▶ Disabled CPU ファンを全速度で強制的に作動します。

☞ Smart FAN Control Mode

CPU のファン速度を制御する方法を指定します。Smart FAN Control Method が Disabled に設定されている場合、このアイテムを設定することはできません。

- ▶ Auto BIOS は取り付けられた CPU ファンのタイプを自動検出し、最適の CPU ファン制御モードを設定します。(既定値)
- ▶ Voltage 3 ピン CPU ファンに対して電圧モードを設定します。
- ▶ PWM 4 ピン CPU ファンに対して PWM モードを設定します。

注 : Voltage モードは 3 ピン CPU ファンまたは 4 ピン CPU ファンに対して設定できます。ただし、Intel PWM ファン仕様に従って設計されていない 4 ピン CPU ファンの場合、PWM モードを選択するとファン速度を効率的に落とせないことがあります。

(注)このアイテムを Intel(R) QST に設定する前に、チャンネル 0 に少なくとも DDRII1 または DDRII2 ソケットが装着されていることを確認してください。システムメモリの小さな部分は、Intel® QST が有効になっているときに共有されます。

2-9 MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2007 Award Software MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)	
Robust Graphics Booster	[Auto]
CPU Clock Ratio ^(注)	[16X]
CPU Host Clock Control	[Disabled]
x CPU Host Frequency (Mhz)	266
PCI Express Frequency (Mhz)	[Auto]
System Memory Multiplier (SPD)	[Auto]
Memory Frequency (Mhz)	667
High Speed DRAM DLL Settings	[Option 1]
Performance Enhance	[Standard]
***** System Voltage Optimized *****	
System Voltage Control	[Manual]
DDR2 OverVoltage Control	[Normal]
FSB OverVoltage Control	[Normal]
(GMCH) OverVoltage Control	[Normal]
CPU Voltage Control	[Normal]
Normal CPU Vcore	1.4000V
↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults	



ご使用上の注意

- オーバークロック / 過電圧を間違って実行すると CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果をまねくことがあります。既定値設定を変更しないようお勧めします。(設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードをデフォルト値にリセットしてください)。
- System Voltage Optimized アイテムが赤で点滅するとき、System Voltage Control アイテムを Auto に設定してシステム電圧設定を最適化するようお勧めします。

☞ Robust Graphics Booster

R.G.B. (ロバストグラフィックスブースタ) により、グラフィックスチップとメモリのパフォーマンスが向上します。Auto により、BIOS はシステム設定に基づき R.G.B. モードを自動的に設定できます。オプションは、Auto (既定値)、Fast、Turbo です。

☞ CPU Clock Ratio^(注)

取り付けた CPU に対してクロック比を変更します。
アンロックされたクロック比の CPU が取り付けられている場合のみ、アイテムが表示されます。

☞ CPU Host Clock Control

CPU ホストクロックの制御の有効 / 無効を切り替えます。Enabled は、以下の CPU Host Frequency アイテムを設定します。注：オーバークロックの後システムが起動に失敗した場合、20 秒待ってシステムを自動的に再起動するか、または CMOS 値を消去してボードを既定値にリセットします。(既定値: Disabled)

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。

☞ CPU Host Frequency (Mhz)

CPU ホスト周波数を手動で設定します。このアイテムは、**CPU Host Clock Control** オプションが有効になっている場合のみ設定可能です。

800 MHz FSB CPU の場合、このアイテムを 200 MHz に設定します。

1066 MHz FSB CPU の場合、このアイテムを 266 MHz に設定します。

1333 MHz FSB CPU の場合、このアイテムを 333 MHz に設定します。

重要 CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定するように強くお勧めします。

☞ PCI Express Frequency (Mhz)

PCIe クロック周波数を手動で設定します。調整可能な範囲は 90 MHz から 150 MHz までです。Auto は PCIe クロック周波数を標準の 100 MHz に設定します。(既定値: Auto)

☞ System Memory Multiplier (SPD)

システムメモリマルチプライヤを設定します。オプションは CPU FSB に依存します。Auto は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値: Auto)

☞ Memory Frequency (Mhz)

最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は **CPU Host Frequency (Mhz)** および **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

☞ High Speed DRAM DLL Settings

2 つの異なるメモリタイミング設定を提供します。DDR2 メモリをオーバークロックした後にシステムが不安定になった場合、Option 1 または Option 2 を選択するとシステムはより安定になります。

► Option 1 メモリタイミング設定 1。(既定値)

► Option 2 メモリタイミング設定 2。

☞ Performance Enhance

システムが 3 つの異なるパフォーマンスレベルで操作できるようにしています。

► Standard 基本パフォーマンスレベルでシステムを操作します。(既定値)

► Turbo 良好なパフォーマンスレベルでシステムを操作します。

► Extreme 最高のパフォーマンスレベルでシステムを操作します。

☞ System Voltage Control

システム電圧を手動で設定するかどうかを決定します。Auto は、必要に応じてシステム電圧を自動的に設定します。Manual(手動) は、以下の電圧制御をすべて設定します。(既定値: Manual)

☞ DDR2 OverVoltage Control

メモリ電圧を設定します。

► Normal 必要に応じて、メモリ電圧を供給します。(既定値)

► +0.1V ~ +0.4V メモリ電圧を 0.1V から 0.4V まで 0.1V 刻みで増加します。

注：メモリ電圧を上げると、メモリが損傷する恐れがあります。

☞ **FSB OverVoltage Control**

フロント サイドバス電圧を設定します。

- » Normal 必要に応じて、FSB 電圧を供給します。(既定値)
- » +0.1V ~ +0.3V FSB 電圧を 0.1V から 0.3V まで 0.1V 刻みで増加します。

☞ **(G)MCH OverVoltage Control**

ノースブリッジ電圧を設定します。

- » Normal 必要に応じて、ノースブリッジ電圧を供給します。(既定値)
- » +0.1V ~ +0.3V ノースブリッジ電圧を 0.1V から 0.3V まで 0.1V 刻みで増加します。

☞ **CPU Voltage Control**

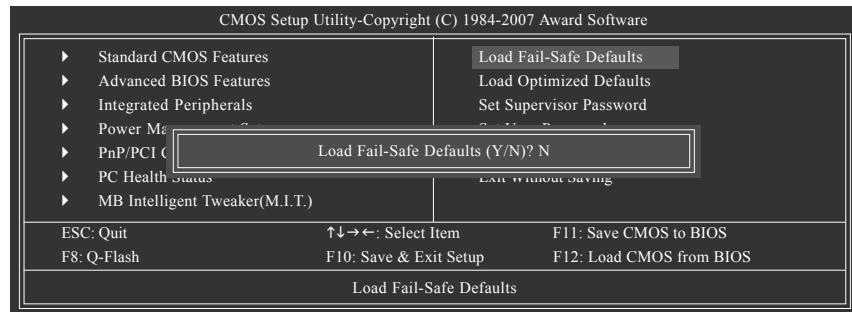
CPU 電圧を設定します。Normal は必要に応じて CPU 電圧を設定します。調整可能範囲は、取り付けられた CPU に依存します。(既定値: Normal)

注: CPU 電圧を増加すると CPU が損傷したり CPU の耐用年数が減少する可能性があります。

☞ **Normal CPU Vcore**

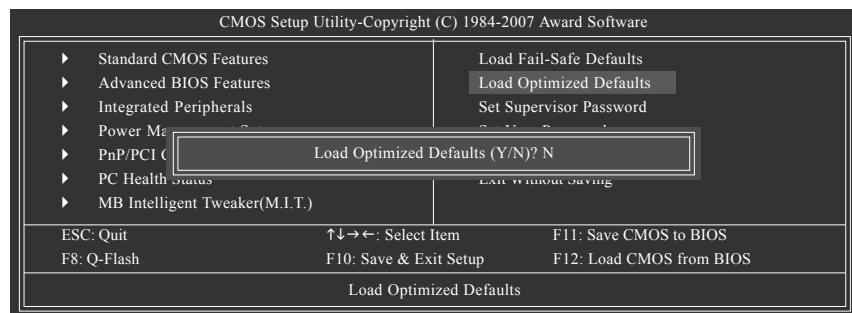
CPU の標準の動作電圧を表示します。

2-10 Load Fail-Safe Defaults



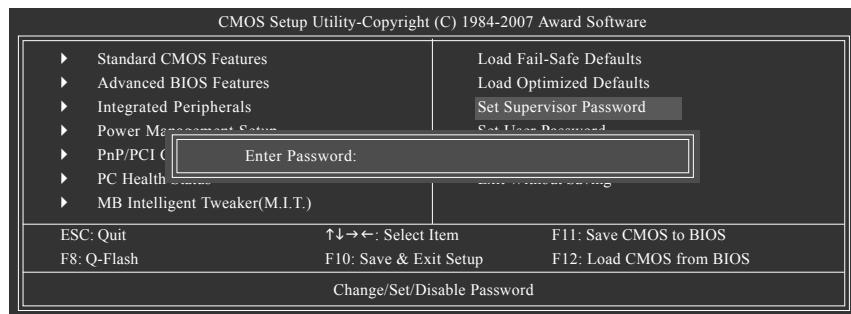
このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、もっとも安全な BIOS 既定値設定がロードされます。システムが不安定になった場合、マザーボードのもっとも安全でもっとも安定した BIOS 設定である、フェールセーフ既定値をロードしてください。

2-11 Load Optimized Defaults



このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、最適な BIOS 既定値設定がロードされます。BIOS 既定値設定により、システムは最適の状態で作動します。BIOS を更新した後、または CMOS 値を消去した後、最適化既定値を常にロードします。

2-12 Set Supervisor/User Password



このアイテムで <Enter> を押して 8 文字以内でパスワードを入力し、<Enter> を押します。パスワードを確認するように求められます。パスワードを再入力し、<Enter> を押します。BIOS セットアッププログラムでは、次の 2 種類のパスワード設定ができます：

☞ Supervisor Password

システムパスワードが設定され、Advanced BIOS Features で Password Check アイテムが Setup に設定されているとき、BIOS セットアップに入り、BIOS を変更するには、管理者パスワードを入力する必要があります。

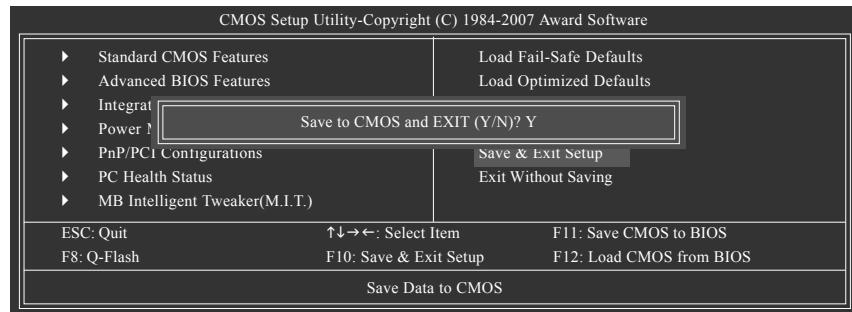
Password Check アイテムが System に設定されているとき、システム起動時および BIOS セットアップを入力するとき、管理者パスワード（または、ユーザーパスワード）を入力する必要があります。

☞ User Password

Password Check アイテムが System に設定されているとき、システム起動時に管理者パスワード（または、ユーザーパスワード）を入力してシステムの起動を続行する必要があります。BIOS セットアップで、BIOS 設定を変更したい場合、管理者パスワードを入力する必要があります。ユーザーパスワードは、BIOS 設定を表示するだけで変更は行いません。

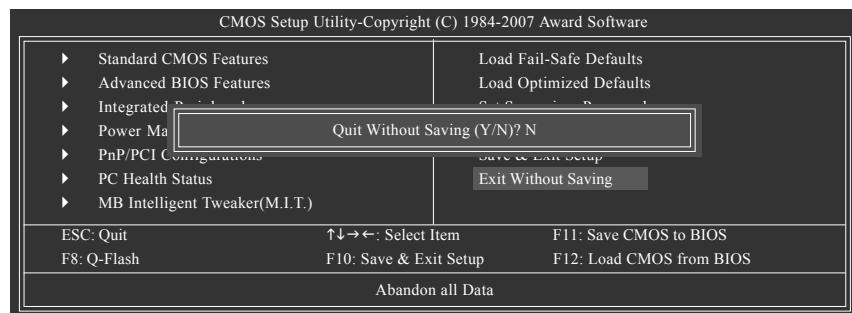
パスワードを消去するには、パスワードアイテムで <Enter> を押しパスワードを要求されたとき、<Enter> を再び押します。「PASSWORD DISABLED」というメッセージが表示され、パスワードがキャンセルされたことを示します。

2-13 Save & Exit Setup



このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS が変更され、BIOS セットアッププログラムを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

2-14 Exit Without Saving



このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

第3章 ドライバのインストール

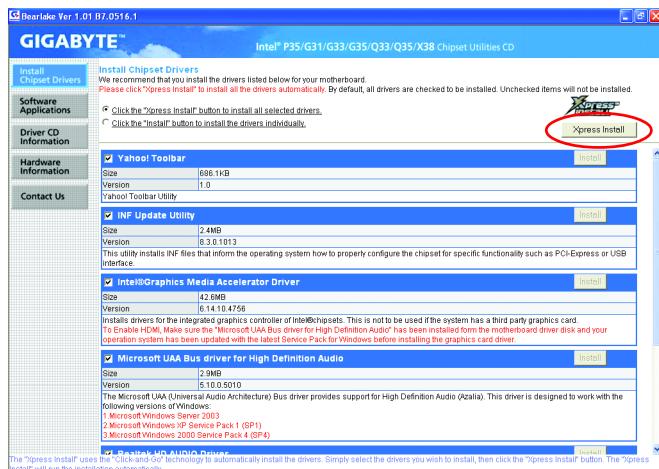


- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
(以下の指示は、サンプルとして Windows XP オペレーティングシステムを使用します)
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバをオプションのドライブに挿入します。ドライバの自動実行スクリーンは、以下のスクリーンショットで示されたように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行スクリーンが自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、光ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します)。

3-1 チップセットドライバのインストール (Installing Chipset Drivers)

"Xpress Install" is now analyzing your computer...99%

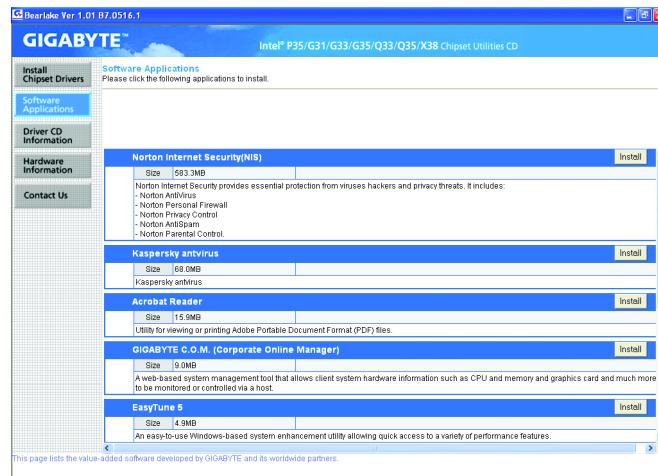
ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にインストールし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。インストールするアイテムを選択し、アイテムの次にある **Install(インストール)** ボタンを押してください。または、**Xpress Install** を押してすべてのドライバアイテムをインストールすることができます。



- 「Xpress Install」がドライバをインストールしているときに表示されるポップアップダイアログボックス(たとえば、**Found new Hardware Wizard**)を無視してください。そうでないと、ドライバのインストールに影響をおよぼす可能性があります。
- デバイスドライバには、ドライバのインストールの間にシステムを自動的に再起動するものもあります。その場合は、システムを再起動した後、**Xpress Install** がその他のドライバを引き続きインストールします。
- ドライバがインストールされたら、オンスクリーンの指示に従ってシステムを再起動してください。マザーボードのドライバディスクに含まれる他のアプリケーションをインストールすることができます。
- Windows XP オペレーティングシステム下で USB 2.0 ドライバをサポートする場合、Windows XP Service Pack 1 以降をインストールしてください。SP1 以降をインストールした後、**Device Manager** の **Universal Serial Bus Controller** にクエスチョンマークがまだ付いている場合、(マウスを右クリックし **Uninstall** を選択して) クエスチョンマークを消してからシステムを再起動してください。(システムは USB 2.0 ドライバを自動検出してインストールします)。

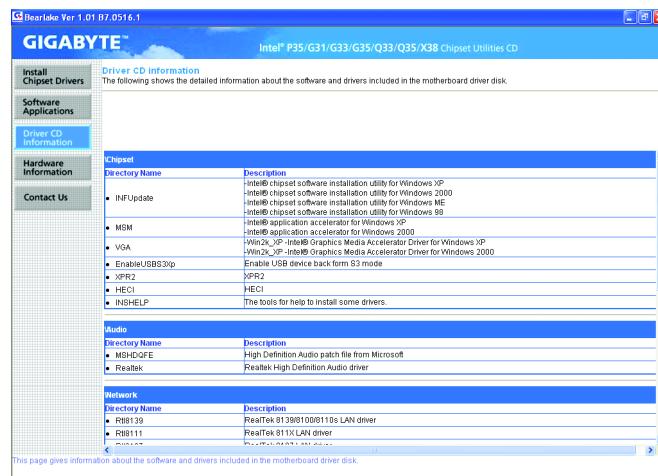
3-2 ソフトウェアアプリケーション(Software Applications)

このページでは、Gigabyte が開発したすべてのツールとアプリケーション、および一部の無償ソフトウェアが表示されます。アイテムに続く **Install(インストール)** ボタンを押して、そのアイテムをインストールすることができます。



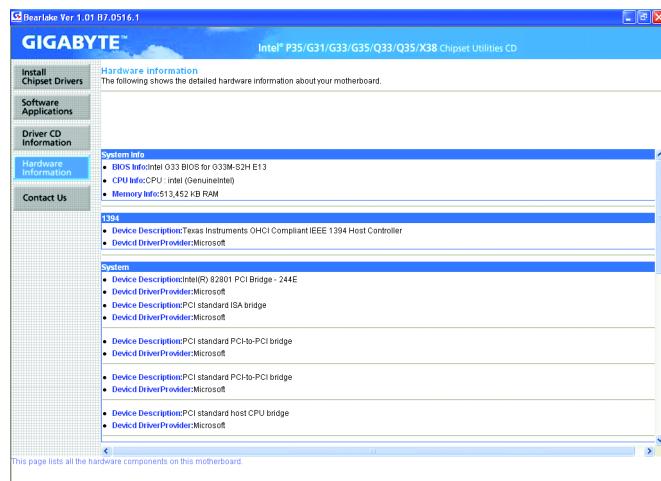
3-3 ドライバCDの情報(Driver CD Information)

このページには、このドライバディスクのドライバ、アプリケーションおよびツールに関する情報が表示されます。



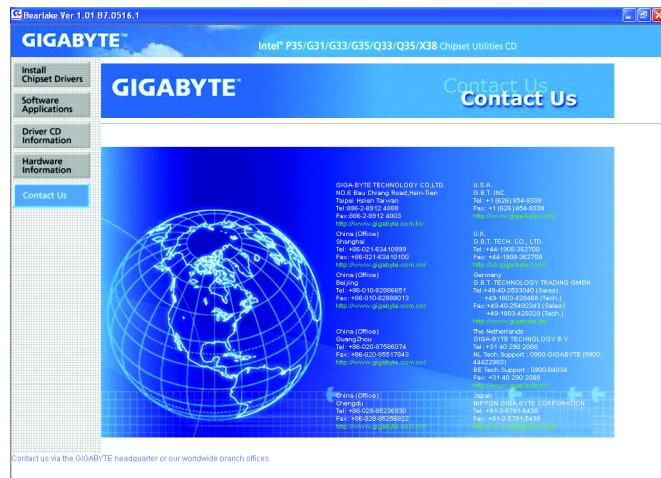
3-4 ハードウェア情報(Hardware Information)

このページには、このマザーボードのハードウェアデバイスに関する情報が表示されています。



3-5 連絡先(Contact Us)

このマニュアルの最後のページで、台湾の GIGABYTE 本社および海外の支店の連絡先情報をチェックしてください。





日本語

第4章 固有の機能

4-1 Xpress Recovery2



Xpress Recovery2 はシステムデータを素早く圧縮してバックアップしたり、復元を実行したりするユーティリティです。NTFS、FAT32、および FAT16 ファイルシステムをサポートしているため、Xpress Recovery2 では PATA および SATA ハードドライブ上のデータをバックアップして、それを復元することができます。

始める前に：

- Xpress Recovery2 は、オペレーティングシステムの最初の物理ハードドライブ * をチェックします。Xpress Recovery2 はオペレーティングシステムをインストールした最初の物理ハードドライブのみをバックアップ / 復元することができます。
- Xpress Recovery2 はハードドライブの最後のバックアップファイルを保存し、あらかじめ割り当てられた容量が十分に残っていることを確認します (10 GB 以上を推奨します)。実際のサイズ要件は、データ量によって異なります)。
- オペレーティングシステムとドライバをインストールした後、直ちにシステムをバックアップするようにお勧めします。
- データ量とハードドライブのアクセス速度は、データをバックアップ / 復元する速度に影響を与えます。
- ハードドライブの復元よりバックアップする方が、長く時間がかかります。

システム要件:

- Intel® x86 プラットフォーム
- 64 MB 以上のシステムメモリ
- VESA 互換のグラフィックスカード
- Windows® 2000 with SP3 以降、Windows® XP with SP1 以降



- Xpress Recovery および Xpress Recovery2 は異なるユーティリティです。たとえば、Xpress Recovery で作成されたバックアップファイルは Xpress Recovery2 を使用して復元することはできません。
- USB ハードドライブはサポートされません。
- RAID/AHCI モードのハードドライブはサポートされません。

*** Xpress Recovery2 は、次の順序で最初の物理ハードドライブをチェックします：最初の PATA IDE コネクタ、2 番目の PATA IDE コネクタ、最初の SATA コネクタ、2 番目の SATA コネクタなど。たとえば、ハードドライブが最初の IDE および最初の SATA コネクタに接続されているとき、最初の IDE コネクタのハードドライブが最初の物理ドライブになります。ハードドライブが 2 番目の IDE および最初の SATA コネクタに接続されているとき、最初の SATA コネクタのハードドライブが最初の物理ドライブになります。

インストールと設定

(以下の手順は、サンプルとして Windows XP オペレーティングシステムを使用します)。

A. Windows XP のインストールとハードドライブの分割

1. BIOS セットアッププログラムで、「拡張 BIOS 機能」の下で最初の起動デバイスとして CD-ROM ドライブを設定します。変更を保存して終了します。
2. ハードドライブを分割しているとき(図 1)、Xpress Recovery2 用に割り当てられていないスペースを残しておいてください(10 GB 以上を推奨します)。実際のサイズ要件は、データ量によって異なります)(図 2)。

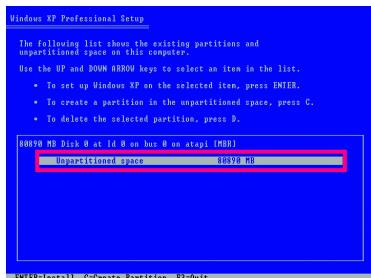


図 1

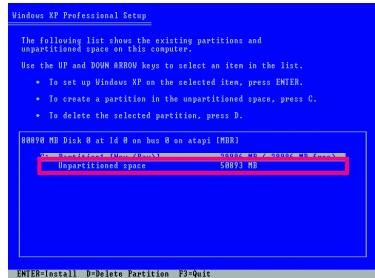


図 2

3. ファイルシステムを選択し(たとえば、NTFS)オペレーティングシステムのインストールを開始します(図 3)。

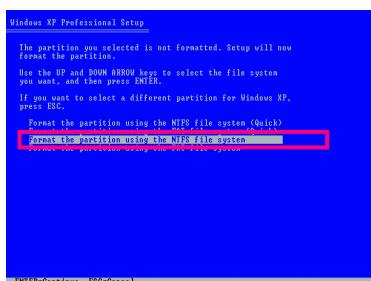


図 3

4. オペレーティングシステムのインストール後、デスクトップの My Computer アイコンを右クリックし、Manage を選択します（図 4）。Computer Management に移動して、ディスクの割り当てをチェックします。Xpress Recovery2 はバックアップファイルを割り当てられていないスペースに保存します（上の黒いストライプ）（図 5）。割り当てられていないスペースが不十分だと、Xpress Recovery2 はバックアップファイルを保存できません。



図 4

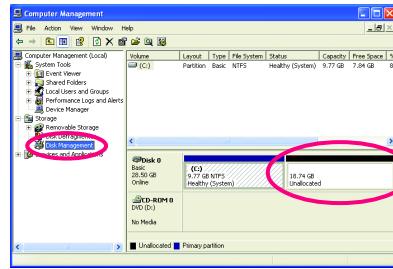


図 5

5. オペレーティングシステムをインストールする前にハードドライブを適切に分割していない場合、ハードドライブの空きスペースを使用して新しいパーティションを作成することができます（図 6、7）。ただし、Disk Management に示されたハードドライブのシステムパーティションに未割り当てるスペースがない場合、新しいパーティションを作成したり Xpress Recovery2 を使用することはできません。この場合、オペレーティングシステムを再インストールし、ハードドライブを再分割してください。

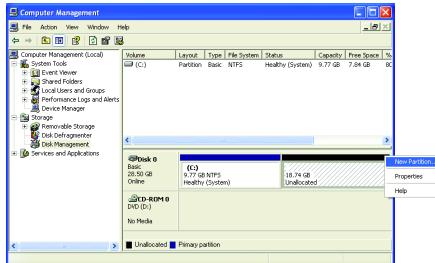


図 6



図 7

新規パーティションウィザードで、Primary partition を選択する必要があります。これにより、Xpress Recovery2 を使用するための未割り当てるスペースが確保されます。

B. Xpress Recovery2 へのアクセス

- マザーボードドライバディスクから起動して、初めて Xpress Recovery2 にアクセスします。
Press any key to startup Xpress Recovery2 (図 8)というメッセージが表示されたら、どれかのキーを押して Xpress Recovery2 に入ります。



図 8

- 初めて Xpress Recovery2 でバックアップ機能を使用した後、Xpress Recovery2 はハードドライブに永久的に保存されます。後で Xpress Recovery2 に入るには、POST 中に <F9> を押してください。(図 9)

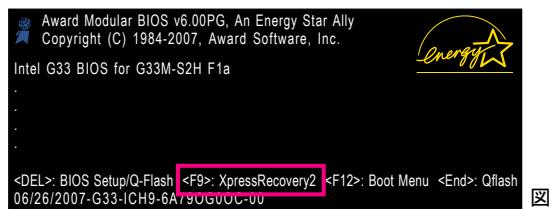


図 9

C. Xpress Recovery2 でのバックアップ機能の使用

- BACKUP を選択して、ハードドライブデータのバックアップを開始します (図 10)。
- Xpress Recovery2 はターゲットドライブとして最初の物理ハードドライブの検索を開始し、ハードドライブに Windows オペレーティングシステムが含まれているかどうか検出します。Windows オペレーティングシステムを検出すると、Xpress Recovery2 はバックアッププロセスを開始します (図 11)。



図 10



図 11

- 終了したら、Disk Management に移動してディスク割り当てをチェックします。

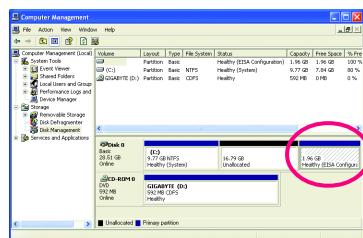


図 12

Xpress Recovery2 は新しいパーティションを自動的に作成して、バックアップされた画像ファイルを保管します。

D. Xpress Recovery2 での復元機能の使用

システムが故障した場合、RESTOREを選択してハードドライブへのバックアップを復元します。それまでバックアップが作成されていない場合、RESTOREオプションは表示されません(図13、14)。



図 13



図 14

E. バックアップの削除

1. バックアップファイルを削除する場合、REMOVEを選択します(図15)。
2. バックアップファイルを削除すると、バックアップされた画像ファイルはDisk Managementからなくなり、ハードドライブのスペースが開放されます(図16)。



図 15

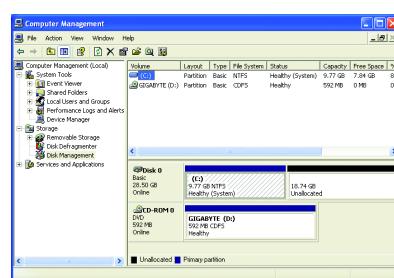


図 16

F. Xpress Recovery2 を終了する

REBOOTを選択してXpress Recovery2を終了します。



図 17

4.2 BIOS 更新ユーティリティ

GIGABYTE マザーボードには、Q-Flash™ と @BIOS™ の 2 つの固有 BIOS 更新が含まれています。GIGABYTE Q-Flash と @BIOS は使いやすく、MSDOS モードに入らずに BIOS を更新することができます。



Q-Flash™ とは？

Q-Flash があれば、Q-Flash や Window のようなオペレーティングシステムに入らずにシステム BIOS を更新することができます。BIOS に組み込まれた Q-Flash ツールにより、複雑な BIOS フラッシングプロセスを踏むといったわずらわしさから開放されます。



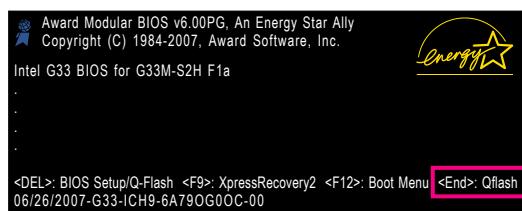
@BIOS™ とは？

@BIOS により、Windows 環境に入っている間にシステム BIOS を更新することができます。@BIOS は一番近い @BIOS サーバーサイトから最新の @BIOS ファイルをダウンロードし、BIOS を更新します。

4.2.1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に：

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ファイルを抽出し、新しい BIOS ファイル(たとえば、G33MS2H.F1)をフロッピーディスク、USB フラッシュドライブ、またはハードドライブに保存します。注：USB フラッシュドライブまたはハードドライブは、FAT32/16/12 ファイルシステムを使用する必要があります。
3. システムを再起動します。POST の間、<End> キーを押して Q-Flash に入ります。注：POST 中に <End> キーを押すことによって、または BIOS セットアップで <F8> キーを押すことによって、Q-Flash にアクセスすることができます。ただし、BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立した IDE/SATA コントローラに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。



BIOS フラッシングは危険性を含んでいるため、注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。



B. BIOS を更新する

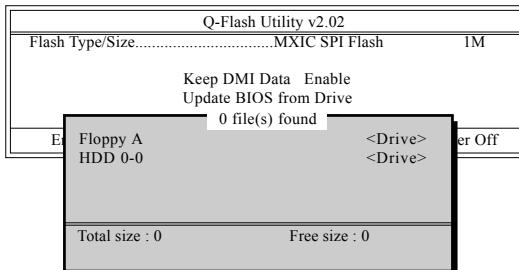
BIOS を更新しているとき、BIOS ファイルを保存する場所を選択します。次の手順では、BIOS ファイルをフロッピーディスクに保存していると仮定しています。

ステップ 1:

1. BIOS ファイルを含むフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。Q-Flash のメインメニューで、上矢印キーまたは下矢印キーを使用して **Update BIOS from Drive** を選択し、<Enter> を押します。

 - **Save Main BIOS to Drive** オプションにより、現在の BIOS ファイルを保存することができます。
 - Q-Flash は FAT32/16/12 ファイルシステムを使用して、USB フラッシュドライブまたはハードドライブのみをサポートします。
 - BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立した IDE/SATA コントローラに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。

2. **Floppy A** を選択し <Enter> を押します。



3. BIOS 更新ファイルを選択し、<Enter> を押します。



BIOS 更新ファイルが、お使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。

ステップ 2:

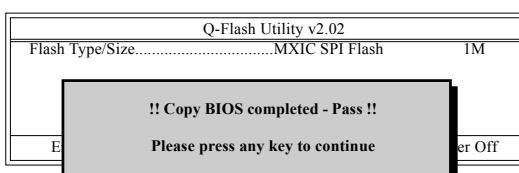
フロッピーディスクから BIOS ファイルを読み込むシステムのプロセスは、スクリーンに表示されます。"Are you sure to update BIOS?" というメッセージが表示されたら、<Enter> を押して BIOS 更新を開始します。モニタには、更新プロセスが表示されます。



- システムが BIOS を読み込み / 更新を行っているとき、システムをオフにしたり再起動したりしないでください。
- システムが BIOS を更新しているとき、フロッピーディスク、USB フラッシュドライブ、またはハードドライブを取り外さないでください。

ステップ 3

更新プロセスが完了したら、どれかのキーを押してメインメニューに戻ります。

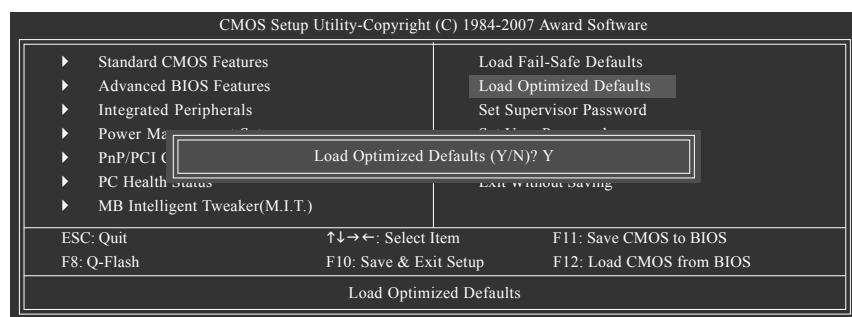


ステップ 4:

<Esc> を次に <Enter> を押して Q-Flash を終了し、システムを再起動します。システムが起動したら、新しい BIOS バージョンが POST スクリーンに存在することを確認する必要があります。

ステップ 5:

POST 中に、<Delete> キーを押して BIOS セットアップに入ります。Load Optimized Defaults を選択し、<Enter> を押して BIOS デフォルトをロードします。BIOS が更新されるときシステムはすべての周辺装置を再検出するため、BIOS デフォルトを再ロードするようお勧めします。



<Y> を押して BIOS デフォルトをロードします。

ステップ 6:

Save & Exit Setup を選択したら <Y> を押して設定を CMOS に保存し、BIOS セットアップを終了します。システムが再起動すると、手順が完了します。

4-2-2 @BIOS ユーティリティで BIOS を更新する

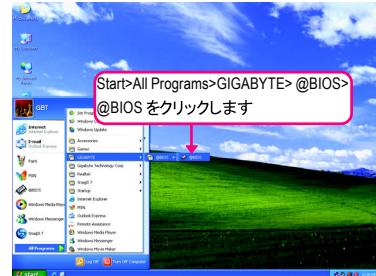
A. 始める前に :

- システムが Intel® ハイパースレッディングテクノロジをサポートする場合、 BIOS セットアップでこの機能を無効にしてください。
- Windows で、すべてのアプリケーションと TSR (メモリ常駐型)プログラムを閉じます。これにより、 BIOS 更新を実行しているとき、予期せぬエラーを防ぐことができます。
- BIOS 更新プロセスの間、インターネット接続が安定しており、インターネット接続が中断されないことを確認してください (たとえば、停電やインターネットのスイッチオフを避ける)。そうないと、 BIOS が破損したり、システムが起動できないといった結果を招きます。
- @BIOS を使用しているとき、C.O.M. (企業オンライン管理) 機能を使用しないでください。
- 不適切な BIOS フラッシングに起因する BIOS 損傷またはシステム障害は GIGABYTE 製品の保証の対象外です。

B. @BIOS をインストールして使用する:

マザーボードに付属するマザーボードドライバディスクを使用して、@BIOS をインストールします。

- @BIOS ユーティリティのインストール。
- @BIOS ユーティリティへのアクセス。



C. オプションと使用上の説明:

1. 現在の BIOS ファイルの保存

@BIOS のメインダイアログボックスでは、Save Current BIOS(現在の BIOS を保存)により現在の BIOS ファイルを保存することができます。

2. インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する



ステップ 2:
自分の場所にもっとも近い @BIOS サーバー サイトを選択し、OK をクリックします。

ステップ 1:
Find BIOS From Gigabyte チェックボック
スを選択し、Update New BIOS をクリッ
クします。



ステップ3:
スクリーンのモデル名が正しいことを確認して、OKをクリックします。完了したら、システムを再起動します。

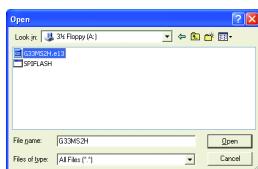
- 上のステップ3を実行しているとき複数のモデルが存在する場合、マザーボードモデルを再確認してください。間違ったBIOSファイルでBIOSを更新すると、システムを起動できなくなります。
- マザーボードのBIOS更新ファイルが@BIOSサーバーサイトに存在しない場合、GIGABYTEのWebサイトからBIOS更新ファイルを手動でダウンロードし、以下の「インターネット更新機能を使用してBIOSを更新する」の指示に従ってください。

ステップ4:
システムが再起動したら、<Delete>を押してBIOSセットアッププログラムに入ります。
Load Optimized Defaultsを選択し、<Enter>を押してBIOSデフォルトをロードします。

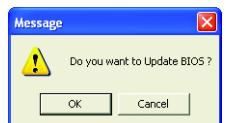
3. インターネット更新機能を使用せずにBIOSを更新する



ステップ1:
Update New BIOSをクリックします



ステップ2:
OpenダイアログボックスのFiles of type(ファイルのタイプ)リストでAll Files(全てのファイル)(*.*)を選択します。インターネットまたは他のソースから入手したBIOS更新ファイル(たとえば、G33MS2H.F1)を保存した場所を選択します。



ステップ3:
OKを押してBIOS更新プロセスを開始します。完了したら、システムを再起動します。

抽出されたBIOSファイルが、お使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。間違ったBIOSファイルでBIOSを更新すると、システムを起動できなくなります。

ステップ4:
システムが起動したら、<Delete>を押してBIOSセットアッププログラムに入ります。**Load Optimized Defaults**を選択し、<Enter>を押してBIOSデフォルトをロードします。

4.3 EasyTune 5

EasyTune™ 5 は使いやすく便利な、システムのオーバークロッキングおよび管理ツールであり、Windows 環境でオーバークロックと過電圧を実行し、BIOS セットアッププログラムに入る必要を除去しています。EasyTune 5 では、次の機能が用意されています^(注 1)：オーバークロッキング / 過電圧、C.I.A./ M.I.B.^(注 2)、スマートファン制御、およびハードウェアモニタリングおよび警告。(EasyTune5 を使用するための詳しい説明については、Web サイトのサポートマザーボード \ ユーティリティページの情報を読みになるかダウンロードしてください)。

EasyTune 5 のインターフェイス



ボタン情報のテーブル

ボタン	ディスプレイ
1. オーバークロッキング	オーバークロッキング設定ページにあります
2. C.I.A./M.I.B.	C.I.A. と M.I.B. 設定ページにあります
3. スマートファン	スマートファン設定ページにあります
4. PC ヘルス	PC ヘルス設定ページにあります
5. GO	構成と実行ボタン
6. 簡単モード / 拡張モード	簡単モードと拡張モードを切り替えます
7. ディスプレイフィールド	CPU 周波数のディスプレイパネル
8. 機能 LED	現在の機能の情報を表示します
9. GIGABYTE ロゴ	GIGABYTE Web サイトへアクセスします
10. ヘルプ	EasyTune™ 5 ヘルプスクリーンを表示します
11. 終了または最小化	EasyTune™ 5 を終了または最小化します



オーバークロック / 過電圧を間違って実行すると CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。オーバークロック / 過電圧を実行する前に、EasyTune 5 の各機能の使用法を完全に理解していることを確認してください。そうでないと、システムが不安定になったり、その他の予期せぬ結果が発生する可能性があります。

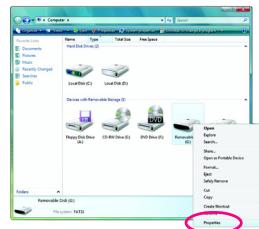
(注 1) EasyTune 5 の使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。

(注 2) C.I.A. と M.I.B. は CPU とメモリを最適化し、これらのコンポーネントのパフォーマンスの向上を図っています。

4.4 Windows Vista ReadyBoost

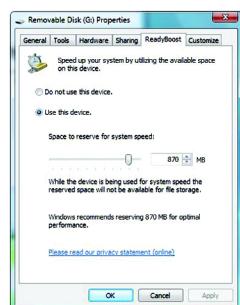
Windows ReadyBoostにより、Windows Vista認定のUSBフラッシュドライブでフラッシュメモリを使用して、コンピュータのパフォーマンスの向上を図ることができます。ReadyBoostを有効にし、USB flashドライブのメモリのパートを割り当ててコンピュータの速度をアップすることができます。

以下のステップに従ってSATA ブラケットを取り付けてください。



ステップ1:

Computerに移動します。USBフラッシュドライブのアイコンを右クリックし、Propertiesを選択します。



ステップ2:

ReadyBoostタブで、Use this device(このデバイスを使用用)を選択し、Space to reserve for system speed(システム速度用に留保するスペース)の下のバーでReadyBoostの予約された容量を調整します。Apply(適用)を次にOKをクリックし、ReadyBoost機能をアクティブにします。



- USBフラッシュドライブには、256 MB以上の空き容量が必要です。
- ReadyBoostアクセラレーションを使用するためには、コンピュータに取り付けられたRAMの1～3倍のメモリ量を推奨します。

第5章 付録

5-1 オーディオ入力および出力を設定

5-1-1 2 / 4 / 5.1 / 7.1 チャンネルオーディオを設定する

マザーボードでは、背面パネルに2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオをサポートするオーディオジャックが6つ装備されています。右の図は、デフォルトのオーディオジャック割り当てを示しています。



統合されたHD(ハイディフィニション)オーディオにジャック再タスキング機能が搭載されているため、ユーザーはオーディオドライバを通して各ジャックの機能を変更することができます。

たとえば、4チャンネルオーディオ設定で、背面スピーカーがデフォルトの中央/サブウーファ・スピーカーアウトジャックに差し込まれると、中央/サブウーファスピーカーアウトジャックを背面スピーカーアウトに設定することができます。



- マイクを取り付けるには、マイクをマイクインまたはラインインジャックに接続し、マイクのジャック機能を手動で設定します。
- 前面パネルオーディオがIntel HD Audio標準をサポートする場合、前面および背面パネルの前面オーディオコネクタを同時にアクティブにすることができます。

ハイディフィニションオーディオ (HD Audio)

HD Audioには、48kHzサンプリングレートをサポートする高品質デジタル対アナログコンバータ(DAC)が複数組み込まれています。HD Audioはマルチストリーミング機能を採用して、複数のオーディオストリーム(インおよびアウト)を同時に処理しています。たとえば、MP3ミュージックを聴いたり、インターネットチャットを行ったり、インターネットで通話を行ったりといった操作を同時に実行できます。

(注) 2 / 4 / 5.1 / 7.1 チャンネルオーディオ設定:
マルチチャンネルスピーカー設定については、次を参照してください。

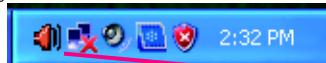
- 2チャンネルオーディオ: ヘッドフォンまたはラインアウト。
- 4チャンネルオーディオ: 前面スピーカーアウトおよび背面スピーカーアウト。
- 5.1チャンネルオーディオ: 前面スピーカーアウト、背面スピーカーアウト、および中心/サブウーファスピーカーアウト。
- 7.1チャンネルオーディオ: 前面スピーカーアウト、背面スピーカーアウト、中心/サブウーファスピーカーアウト、および側面スピーカーアウト。

A. スピーカーを設定する:

(以下の指示は、サンプルとして Windows XP オペレーティングシステムを使用します)。

ステップ 1:

オーディオドライバをインストールすると、オーディオマネージャアイコン  Audio Manager トレイに表示されます。アイコンをダブルクリックして、オーディオコントロールパネルにアクセスします。



CAUTION オーディオドライバをインストールする前に、「Microsoft UAA Bus driver for High Definition Audio」がマザーボードのドライバディスクからインストールされ、オペレーティングシステムが最新の Service Pack for Windows で更新されていることを確認してください。

ステップ 2:

Audio I/O(オーディオ I/O) タブをクリックします。左のスピーカーリストで、セットアップするスピーカー設定のタイプに従い、**2 CH Speaker**、**4CH Speaker**、**6CH Speaker**、または**8CH Speaker**を選択します。



ステップ 3:

オーディオデバイスをオーディオジャックに接続するたびに、**Connected device(接続済みデバイス)** ボックスが表示されます。接続するデバイスのタイプに従って、デバイスを選択します。次に、OK をクリックし設定を完了します。



B. サウンド効果を設定する:
Sound Effect タブのオーディオ環境を設定することができます。



C. AC'97 Audio を設定する:
AC'97 前面パネルオーディオモジュールを接続する場合、Global Connector Settings(グローバルコネクタ設定) ボックスの Audio I/O (オーディオ I/O) タブでツールアイコンをクリックし、Disable front panel jack detection(前面パネルジャック検出を無効にする) チェックボックスを選択します。OK をクリックして AC'97 機能を有効にします。



 AC'97 前面パネルのオーディオモジュールを使用しているとき、前面または背面パネルのオーディオ接続にあるオーディオ信号のみを使用することができますが、両方を同時に使用することはできません。

5-1-2 S/PDIF インケーブルを取り付ける（オプション）

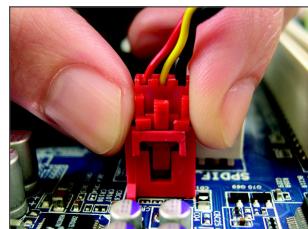
S/PDIF インケーブルには、S/PDIF イン機能が組み込まれています。



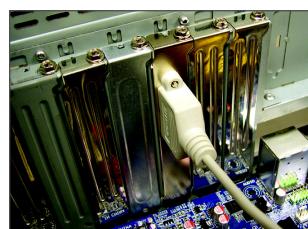
S/PDIF イン:

S/PDIF インジャックでは、デジタルオーディオ信号をコンピュータに入力してオーディオ処理を行います。

A. S/PDIF インケーブルを取り付ける:



ステップ 1:
まず、ケーブルの端のコネクタをマザーボードの SPDIF_IN ヘッダに接続します。



ステップ 2:
金属製ブラケットをねじでシャーシの背面パネルに固定します。

S/PDIF アウト:

アウトジャックはデコード用の外部デコーダにオーディオ信号を送信して、最高のオーディオ品質を実現します。

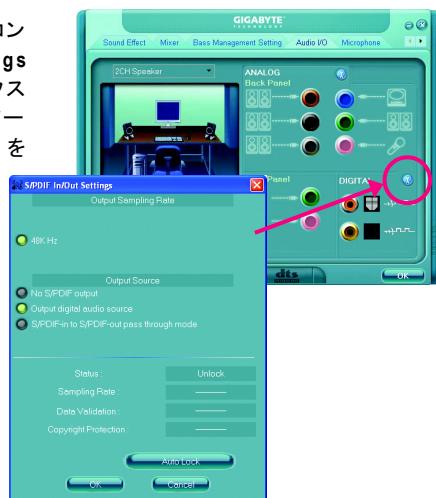
B. S/PDIF アウトケーブルを接続する

S/PDIF 光ケーブルを外部デコーダに接続して、S/PDIF デジタルオーディオ信号を送信します。

S/PDIF 光ケーブル

C. S/PDIF アウトを設定する:

DIGITAL(デジタル) セクションでツールアイコンをクリックします。S/PDIF In/Out Settings (S/PDIF イン / アウト 設定) ダイアログボックスで、出力サンプリングレートを選択し、出力ソースを選択します (または無効にします)。OK をクリックし設定を完了します。





5-1-3 DTS (デジタルシアターシステム) 機能を有効にする

DTS が有効になる前には、2 チャンネル音楽を再生しているとき、(前面スピーカーから)2 チャンネル出力信号しか得られません。4、5.1、または 7.1 チャンネルオーディオ効果を出すには、4、5.1、または 7.1 チャンネル音楽ソースを再生する必要があります。システムは DTS を有効にして 2 チャンネルのステレオソースのマテリアルをマルチチャネルのオーディオ出力に変換して、仮想サウンド環境を作り上げています^(注)。



オーディオドライバをインストールすると、以下に示すように、オーディオコントロールパネルの中央下に DTS コントロールボタンが表示されます。



DTS 制御ボタン

1. : このボタンにより、「dts NEO:PC」を詳細に制御することができます。
 音楽モード、 シネマモード
2. "dts NEO : PC" :
このボタンを押して NEO : PC 機能の有効 / 無効を切り替えます。
dts NEO を有効にする:システムは、スピーカー設定に従って、通常の 2 チャンネルステレオコンテンツを 4、5.1、または 7.1 チャンネルのサラウンドサウンドに変換します。
3. "dts INTERACTIVE" :
サラウンドサウンドシステムが外部デコーダを通して接続されている場合、オーディオコントロールパネルのオーディオ I/O タブをクリックしてください。左上リストの DTS Interactive をクリックするか、オーディオコントロールパネル中央下にある dts INTERACTIVE ボタンをクリックします。dts NEO : PC ボタンをクリックします。システムは、2 チャンネルコンテンツから 5.1 チャンネルサラウンドサウンド再生をシミュレートします。



(注) DTS Interactive が有効になっているとき、デジタルオーディオ出力 (S/PDIF) のみが作動し、アナログスピーカーまたはヘッドフォンからサウンドを聞くことはできません。



4. デジタル PCM 出力セットアップ:
オーディオコントロールパネルで、Audio I/O タブをクリックします。上部左リストで、Digital PCM Output をクリックします。この機能を有効にすると、DTS エンコーディングによりデジタル的に処理されていないデジタルオーディオソースが S/PDIF OUT から出力できるようになります。



5-1-4 マイク録音を設定する

ステップ1:
オーディオドライバをインストールすると、Audio Manager(オーディオマネージャ) アイコンがシステムトレイに表示されます。アイコンをダブルクリックして、オーディオコントロールパネルにアクセスします。



ステップ2:
マイクを、背面パネルのマイクインジャック(ピンク)または前面パネルのラインインジャックに接続します。次に、マイクが機能するようにジャックを設定します。

注：前面パネルと背面パネルのマイク機能は、同時に使用できません。



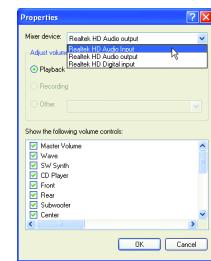
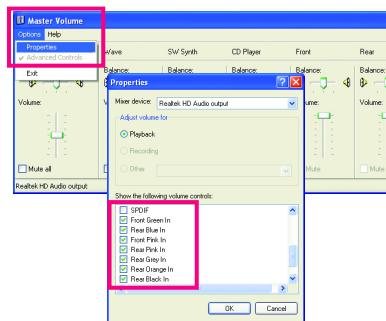
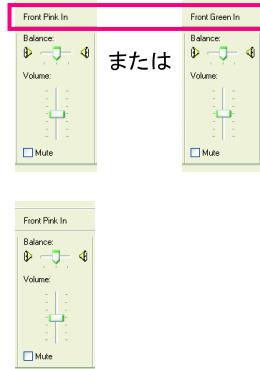
ステップ3:
システムトレイで Volume(ボリューム) アイコンを探し、そのアイコンをクリックして音量コントロールパネルを開きます。



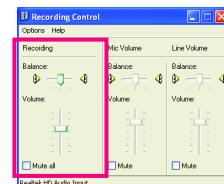
ステップ4:
前面パネルのマイク機能を使用しているとき、録音プロセス中のサウンドを聞くには、Master Volume(マスター・ボリューム) の Front Pink In(前面ピンクイン) または Front Green In(前面グリーンイン) の下で Mute(消音) チェックボックスを選択しないでください。音量は、中レベルに設定することをお勧めします。

背面パネルのマイク機能を使用しているとき、または前面パネルで録音プロセス中のサウンドを聞くには、Master Volume の Rear Pink In の下で Mute チェックボックスを選択しないでください。音量は、中レベルに設定することをお勧めします。

(注)
Master Volume で必要な音量コントロールオプションが見つからない場合、Options(オプション)メニューを表示し Properties(プロパティ) を選択します。表示する音量コントロールオプションを選択し、OK をクリックして完了します。



Mixer device リストで Realtek HD Audio Input を選択します



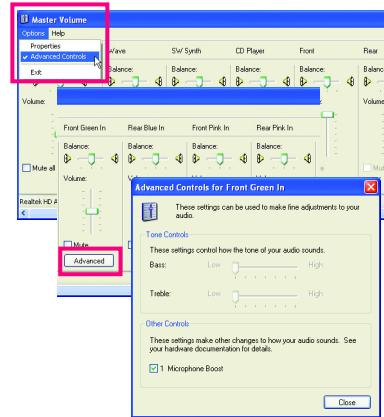
録音コントロール

ステップ5:
次に、Master Volume に入っている間に、Options を表示し Properties をクリックします。Mixer device(マスター・デバイス) リストで、Realtek HD Audio Input(Realtek HD オーディオ入力) を選択します。次に、録音サウンドレベルを適切に設定します。録音サウンドを消音にしないでください。消音にすると、再生しても録音は聞こえません。



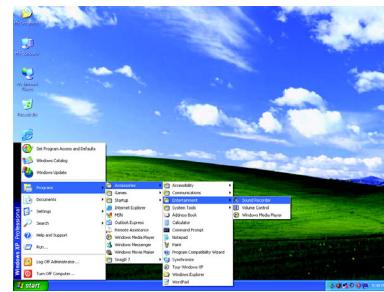
ステップ6:

マイクでの録音および再生サウンドの音量を上げるには、Master Volume で Options を表示し Advanced Controls を選択します。音量コントロールオプションの下で Advanced ボタンをクリックします（たとえば、前面グリーンイン、前面ピンクイン）。Other Controls フィールドで、1 Microphone Boost チェックボックスを選択します。



ステップ7:

完了したら、Start をクリックし、Programs、Accessories、Entertainment を順にポイントし、Sound Recorder をクリックしてサウンド録音を開始します。



5-1-5 サウンドレコーダーを使用する

サウンドを録音する:

1. オーディオ入力デバイス（たとえば、マイク）をコンピュータに接続していることを確認します。
2. File メニューで、New を選択します。
3. サウンドファイルを録音するには、Recording ボタン をクリックします。
4. 録音を停止するには、Stop ボタン をクリックします。
完了時に、録音を保存するのを忘れないでください。



サウンドを再生する:

1. File メニューで、Open を選択します。
2. Open ダイアログボックスで、再生するサウンド (.wav) ファイルを選択します。
3. サウンドファイルを再生するには、Play ボタン をクリックします。
4. 再生を停止するには、Stop ボタン をクリックします。
5. Fast Forward ボタン を使用してファイルの始めに移動したり、Fast Backward ボタン を使用して最後に移動したりできます。

5-2 トラブルシューティング

5-2-1 良くある質問

マザーボードに関する FAQ の詳細をお読みになるには、GIGABYTE の Web サイトの Support\Motherboard\FAQ page (サポート \ マザーボード \FAQ) にアクセスしてください。

Q: BIOS セットアッププログラムで、一部の BIOS オプションがないのは何故ですか？

A: いくつかのアドバンストオプションは BIOS セットアッププログラムの中に隠れています。POST 中に、<Delete> キーを押して BIOS セットアップに入ります。メインメニューで、<Ctrl>+<F1> を押してアドバンストオプションを表示します。

Q:なぜコンピュータのパワーを切った後でも、キーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか？

A: いくつかのマザーボードでは、コンピュータのパワーを切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。

Q: CMOS 値をクリアするには？

A: マザーボードに CMOS クリアリングジャンパが付いている場合、第 1 章の CLR_CMOS ジャンパに関する説明を参照して CMOS 値をクリアしてください。ボードにこのジャンパが付いてない場合、第 1 章のマザーボードバッテリに関する説明を参照してください。バッテリホルダーからバッテリを一時的に取り外して、CMOS への電力の供給を停止し、それによって約 1 分後に CMOS 値をクリアすることができます。下記のステップを参照してください。

ステップ：

1. コンピュータのパワーをオフにし、パワーコードを抜きます。
2. バッテリホルダからバッテリをそつと取り外し、1 分待ちます。
(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリホルダの正および負の端子に触れ、5 秒間ショートさせます)。
3. バッテリを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。
5. <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。「Load Fail-Safe Defaults」(または「Load Optimized Defaults」)を選択して、BIOS のデフォルト設定をロードします。
6. 変更を保存して BIOS セットアップを終了し(「Save & Exit Setup」を選択)、コンピュータを再起動します。

Q:なぜスピーカーの音量を最大にしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか？

A: スピーカーにアンプが内蔵されていることを確認してください。内蔵されていない場合、電源 / アンプでスピーカーを試してください。

Q: POST 中にビープ音が鳴るのは、何を意味していますか？

A: 次の Award BIOS ビープ音コードの説明を参照すれば、考えられるコンピュータの問題を確認できます。

(参照のみ)

1 短：システム起動成功

2 短：CMOS 設定エラー

1 長、1 短：メモリまたはマザーボードエラー

1 長、2 短：モニターまたはグラフィックスカードエラー

1 長、3 短：キーボードエラー

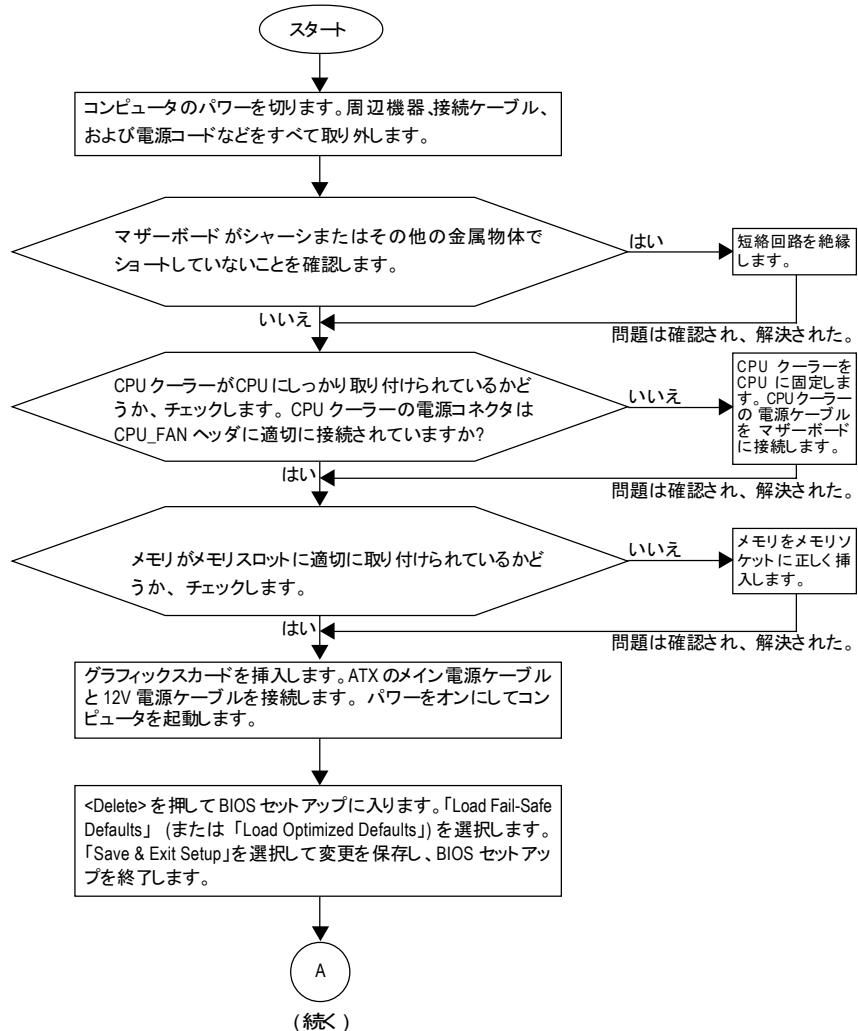
1 長、9 短：BIOS ROM エラー

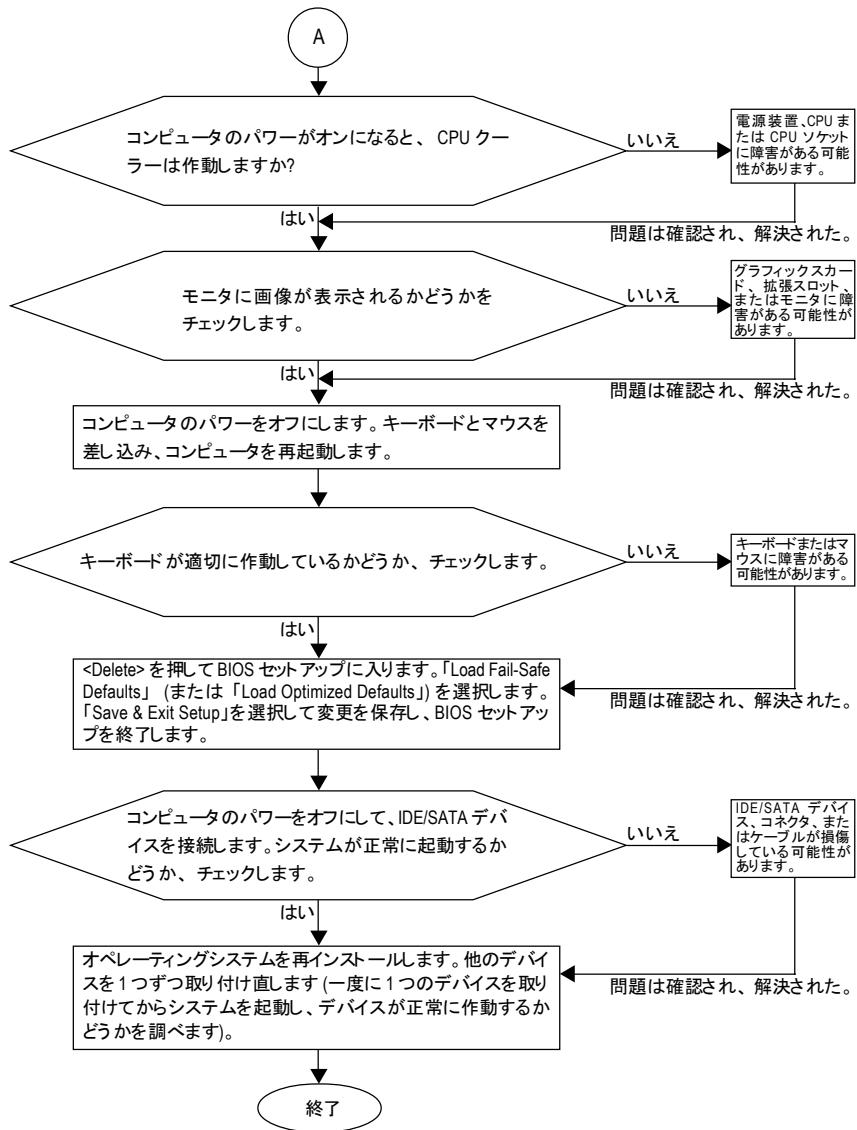
連続のビープ(長)：グラフィックスカードが適切に挿入されていません

連続のビープ(短)：パワーエラー

5-2-2 トラブルシューティング手順

システム起動時に問題が発生した場合、以下のトラブルシューティング手順に従って問題を解決してください。





上の手順でも問題が解決しない場合、ご購入店または地域の代理店に相談してください。または、サポート \ 技術サービスゾーンページにアクセスして、問題を送信してください。当社の顧客サービス担当者が、できるだけ速やかにご返答いたします。

日本語



連絡先

● Taiwan (Headquarters)

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.
Address: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien,
Taipei 231, Taiwan
TEL: +886-2-8912-4888
FAX: +886-2-8912-4003
Tech. and Non-Tech. Support (Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw>
WEB address (English): <http://www.gigabyte.com.tw>
WEB address (Chinese): <http://www.gigabyte.tw>

● U.S.A.

G.B.T. INC.
TEL: +1-626-854-9338
FAX: +1-626-854-9339
Tech. Support:
<http://rma.gigabyte-usa.com>
Web address: <http://www.gigabyte.us>

● Mexico

G.B.T Inc (USA)
Tel: +1-626-854-9338 x 215 (Soporte de habla hispano)
FAX: +1-626-854-9339
Correo: soporte@gigabyte-usa.com
Tech. Support:
<http://rma.gigabyte-usa.com>
Web address: <http://www.gigabyte.com.mx>

● Singapore

GIGA-BYTE SINGAPORE PTE. LTD.
WEB address : <http://www.gigabyte.com.sg>

● Thailand

WEB address : <http://th.giga-byte.com>

● Vietnam

WEB address : <http://www.gigabyte.vn>

● China

NINGBO G.B.T. TECH. TRADING CO., LTD.
WEB address : <http://www.gigabyte.cn>

Shanghai

TEL: +86-21-63410999
FAX: +86-21-63410100

Beijing

TEL: +86-10-62102838
FAX: +86-10-62102848

Wuhan

TEL: +86-27-87851061
FAX: +86-27-87851330

GuangZhou

TEL: +86-20-87540700
FAX: +86-20-87544306 ext. 333

Chengdu

TEL: +86-28-85236930
FAX: +86-28-85256822 ext. 814

Xian

TEL: +86-29-85531943
FAX: +86-29-85539821

Shenyang

TEL: +86-24-83992901
FAX: +86-24-83992909

● India

GIGABYTE TECHNOLOGY (INDIA) LIMITED
WEB address : <http://www.giga-byte.co.in>

● Saudi Arabia

WEB address : <http://www.gigabyte.com.sa>

● Australia

GIGABYTE TECHNOLOGY PTY. LTD.
WEB address : <http://www.gigabyte.com.au>

日本語

- **Germany**
G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH
WEB address : <http://www.gigabyte.de>
- **U.K.**
G.B.T. TECH. CO., LTD.
WEB address : <http://www.giga-byte.co.uk>
- **The Netherlands**
GIGA-BYTE TECHNOLOGY B.V.
WEB address : <http://www.giga-byte.nl>
- **Sweden**
WEB address : <http://www.giga-byte.se>
- **France**
GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCE
WEB address : <http://www.gigabyte.fr>
- **Italy**
WEB address : <http://www.giga-byte.it>
- **Spain**
GIGA-BYTE SPAIN
WEB address : <http://www.giga-byte.es>
- **Czech Republic**
Representative Office Of GIGA-BYTE Technology Co., Ltd.
in CZECH REPUBLIC
WEB address : <http://www.gigabyte.cz>
- **Turkey**
Representative Office Of GIGA-BYTE Technology Co., Ltd.
in TURKEY
WEB address : <http://www.gigabyte.com.tr>
- **Russia**
Moscow Representative Office Of GIGA-BYTE Technology
Co., Ltd.
WEB address : <http://www.gigabyte.ru>
- **Latvia**
GIGA-BYTE Latvia
WEB address : <http://www.gigabyte.com.lv>
- **Poland**
Office of GIGA-BYTE TECHNOLOGY Co., Ltd. in POLAND
WEB address : <http://www.gigabyte.pl>
- **Ukraine**
WEB address : <http://www.gigabyte.kiev.ua>
- **Romania**
Representative Office Of GIGA-BYTE Technology Co., Ltd.
in Romania
WEB address : <http://www.gigabyte.com.ro>
- **Serbia & Montenegro**
Representative Office Of GIGA-BYTE Technology Co., Ltd.
in SERBIA & MONTENEGRO
WEB address : <http://www.gigabyte.co.yu>

GIGABYTE Web サイトにアクセスし、Web サイトの
右下の言語リストで言語を選択してください。

● GIGABYTE Global Service System



技術的または技術的でない(販売 / マーケティング)
質問を送信するには:
<http://ggts.gigabyte.com.tw> にリンクしてから、
言語を選択し、システムに入ります。



关于符合中国《电子信息产品污染控制管理办法》的声明
Management Methods on Control of Pollution from Electronic Information Products
(China RoHS Declaration)

产品中有毒有害物质或元素的名称及含量
Hazardous Substances Table

部件名称 (Parts)	有毒有害物质或元素 (Hazardous Substances)					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
PCB板 PCB	○	○	○	○	○	○
结构件及风扇 Mechanical parts and Fan	×	○	○	○	○	○
芯片及其他主动零件 Chip and other Active components	×	○	○	○	○	○
连接器 Connectors	×	○	○	○	○	○
被动电子元器件 Passive Components	×	○	○	○	○	○
线材 Cables	○	○	○	○	○	○
焊接金属 Soldering metal	○	○	○	○	○	○
助焊剂、散热膏、标签及其他耗材 Flux, Solder Paste, Label and other Consumable Materials	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T11363-2006标准规定的限量要求以下。
Indicates that this hazardous substance contained in all homogenous materials of this part is below the limit requirement SJ/T 11363-2006

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T11363-2006标准规定的限量要求。
Indicates that this hazardous substance contained in at least one of the homogenous materials of this part is above the limit requirement in SJ/T 11363-2006

对销售之日的所售产品，本表显示我公司供应链的电子信息产品可能包含这些物质。注意：在所售产品中可能会也可能不会含有所有所列的部件。
This table shows where these substances may be found in the supply chain of our electronic information products, as of the date of the sale of the enclosed products. Note that some of the component types listed above may or may not be a part of the enclosed product.